



「ウォーカー」氏著  
通貨論第十六編  
不換紙幣の明辨  
正金拂禁止の令の設けし時代、英國財政、佛國革命時代、發行紙幣の

大藏省  
翻譯課



474  
A122  
5



十六編

不換紙幣ノ明辨 佛國革命時代ノ發行紙幣、

正金拂禁止令ヲ設ケレ時代ノ英國財政

允ッ紙幣ノ一事ニ於ケル佛國ノ經歷ハ實ニ此上モ  
ク訓誨トナスニ足ルハキモノナリ本編ノ紙數固ヨリ  
限リアレハ其紙幣ノ經歷ヲ逐一爰ニ登載シテ遺漏ナ  
カラシメント欲スルモ得ヘカラス依テ爰ニ唯佛國革  
命ノ發行紙幣ノ未歷ニ遡リ僅ニ其大要ヲ追記スル所  
アル而已

千七百八十九年ノ佛國政府財政ノ窘迫此時ヨリ太シ  
キハナシ請ニ其地ル所以ノ陳セニ各般ノ賦稅ハ既  
去テ再ニ歸ラサセ用途ニ供充セラレテ生産ニ利用

鬼頭悌二郎譯

大正十一年四月

セラル、モノ  
没入セシ土地、如キハ毫モ夫レヨ  
リ、歳入ヲ生  
而已ナラス猶且ツ却テ莫ク、時  
ヲ生スルノ苦域ニ迄マレリ爰ニ於テカ佛國議院ノ會  
計委員ハ魚テ官ニ没入シ置キタル土地ヲ當トシ紙  
幣ヲ發行シテ以テ救助ノ策トナスノ可ナルヲ報告  
セリ

佛人ゼイ、ガルニイ氏ハ其著述理財論中ニ論シテ曰  
ク凡ソ土地抵当紙幣ヲ發行スルノ意ハ千七百八十  
七年ニ初マレリト

會計委員ノ報告スル所斯ノ如ク紙幣ノ發行ヲ可ト  
シト云レ佛國ニ於テハ已ニ之レヨリ前千七百十九年  
ヨリ二十一年ニ亘リテ夫ノ「デヨシ、ロ」ノ「ミシ、ッポ」  
ノ擧アリテ紙幣發行ノ為メニ痛ク艱難辛苦ヲ嘗メ

ルニ依リ議院モ國民モ共ニ躊躇シテ其事ヲ断行セ  
リシナリ「ドクトル、ラムセ」氏ノ言ニ曰ク米國南「カ  
リナ」ニ於ケル千七百三十六年ノ紙幣一件ニ付其行政  
官ノ討論ノ如キハ其後四十年ノ星霜ヲ經テ佛國革  
ノ紙幣ヲ發行スルニ臨ミ議論ヲ生シタル節ニ引証ヤ  
ラレサリシト然ルニ昔日「レ」セント治世ノ比紙幣發  
行ノ為メニ大ニ佛國ニ災害ヲ生ヤシ以來已ニ七十年  
ノ久シキヲ經過スルモ猶ホ世ヲシテ右ノ災害ヲ想起  
スルノ念ヲ今ニ断絶セシメス  
當時會計委員ノ説己ニ上文ニ開陳スルカ「ク」ナリ  
ト魚氏時ノ大蔵卿「ツケル」氏ハ依令ニ救助ノ策ヲ  
シモ紙幣ヲ「ル」不可ナルヲ主張シ痛ク其議ヲ  
駁撃セリ然レ「ク」何セン當時會計ノ困迫日一日ヨリ

甚シク且ツ議  
者ノ勢強キニ  
行ノ擧ヲ可トスル者ノ負數ヲ增加セリ  
又衆負ノ中ニハ今日ノ時代ト事情トハ昔ノ時代ト  
事情ニアラス古今已ニ一変ヤシヲ以テ紙幣發行ノ擧  
ノ如キモ亦自ツカラ一變シタルカ故ニ昔日「レ」ゼン  
ト治世ノ比ハ紙幣發行ノ為メニ禍害ヲ佛國ニ波及シ  
タレト今日ノ共和政府ノ下ニアリテハ紙幣ヲシテ安  
全ニ利益ニナスヘキヲ主張セシ論者モアリタリ  
「マル」チノ「」氏ナル者佛國議院ニ於テ紙幣ヲ可トス  
ノ論ヲ發セリ其言ニ曰ク  
紙幣ヨ紙幣ヨ凡ソ立君獨裁政府ノ下ニ發行スル紙幣  
ハ實ニ危險ナリ其然ル所以ノモノハ他ナシ獨裁政府

ノ紙幣ハ只暴虐弊風ノ救ケトナルニ過キサレハナ  
然レト苟モ國憲ノ在ルアリテ以テ一國ノ定律タルニ  
於テハ其國民タル者ハ其自國發行ノ紙幣ニ付テ怠慢  
ナク意ヲ注キ其紙幣ノ負數其他其使用向オヲ決定ス  
ルカ故ニ右ノ如キ危險ハ一日モ之レアルコトナシト  
佛國共和國ノ大統領「ホワイ」ト氏ハ其著述「マイ」パー、モ  
ニ「エ」ン「フ」レイ「シ」ヨ「ン」エ「ン」フ「ラ」ンス「ト」題セル一小冊  
子中ニ論シテ曰ク  
凡ソ字内萬國中如何ナル邦國ニ限ラズ若シ紙幣ヲ發  
行シテ事安全ヲ得サリシナラハ我佛國コソ乃チ其國  
ナリト、論者カ喋々辨論主張セシ所ニシテ其論ハ而  
モ大ニ勢力  
右ニ止マラ  
ルノ巴「リ」タリ論者カ喋々セシハ  
左ノ數件ニ於テモ又然レリ佛國ハ

紙幣發行ノ弊

充分ニ前報

テハ已ニ非常ノ經歷ヲ嘗メタルハ  
ヲ熟知フルアリト云ヒ佛國ハ今實

ニ純然タル定律政府ニシテ文明愛國ナル人民ノ統轄  
スル所ナレハ昔日ノ紙幣發行ノ日ノ如ク政事家ト山  
師連ノ支配スル立君獨裁ノ國ニアラスト云ヒ佛國ハ  
今紙幣ヲ發行スルモ其紙幣ノ發行總額ヨリモ余程巨  
額ノ價アル土地ヲ現ニ抵當トナシテ以テ其發行ノ紙  
幣ヲ一「フランク」ノ遺漏モナク保証スルヲ得ルト云ヒ  
又佛國ニハ今ヤ上ニハ「ベイリー」ミラボ「其他」ニ  
ル等以上三氏ノ如キ紳士ノ在ルアレハ嚮キニ「ヂヨミ  
ロ」レ「ゼン」ト其他「カ」ジ「レ」シ「ジュ」ボ「ア」等ノ如キ諸  
氏在上ノ日ニアリテ佛國ノ苦ミタル如キ財政ヲ誤リ  
公罪ヲ犯サント欲スルモ得ヘカラサルナリヤ

以上佛國諸論者ノ議論ト吾人カ是レ迄已ニ有六キ  
ノ間ニ合衆國內ニ於テ聞見シタル論トハ親シク相類  
似スルモノアルヤ必セリ夫レ佛國ノ當時ニアリテハ  
只目前ノ利ニ而已是レ著目シ且ツ人氣騷然タリシス  
故ニ以上ノ如キ薄弱ノ遁辭スラモ猶ホ能ク政事上ノ  
經歷ヲ破ルニ足リタリ之レヲ今日ニ視ルハ實ニ痛ハ  
シキ至リナリ

佛國議院ノ重立キタル者等ハ官有地ヲ抵當トシテ紙  
幣ヲ發行スルハ救助ノ策タルヲ主張シ且ツ種々巧  
ニニ遁辭ヲ設ケテ以テ其舉ノ經濟主義ニ違背スルヲ  
彌縫スル而已ナラス猶且ツ私ニ政界ヲ設ケ計ヲ回ラ  
シテ以テ其弊ヲ義ニ勢力ヲ付セリ  
「ジ」レ「エ」ル「氏」ハ「自」文ニ引用シタル大統領「ホ」ワ「イ」ト「氏」

ノ著「ペイパー」ニ付、エシヨシ、エシ、フランス  
ト題セル「ペイパー」ニ付一評ヲ下シテ以テ抑ミ土地抵  
當紙幣ノ價陸續下落シ隨テ其信用ヲ害セシハ原ト佛  
國當時政界上ノ失ナリ紙幣銷還ノ抵當トシタル土地  
ニ請求ノ權ヲ付スルノ據テ然ラシムル所ナリ決シテ  
紙幣ツレ自ツカラノ通用貸タル經濟上ノ失アルニ非  
スト  
當時ノ勢已ニ斯ノ如クナリシヲ以テ能辨ト會計窘迫  
ノカト政界ト以上ノ三者ハ益其勢ヲ逞フシ他年ノ經  
歴モ却テ之レカ為メニ其力ヲ殺ル、ニ至リタリサレ  
ハコソ議院ニ於テハ官有地ノ抵當トシテ四億フラン  
クノ紙幣ヲ發行スルノ議ヲ可決セリ  
爰ニ於テカ官有地ノ抵當タルヲ一目瞭然ナラシメ

カ為メニ其發行紙幣ニ「アツシグニヤ」土地抵當ノ紙幣  
ト云フ義ナリノ名称ヲ適用セリ又右ノ發行紙幣ニ  
ハ利子ヲ付シ且ツ請求次第何時ニテモ望ニ應ミテ拂  
渡スヘキモノタルヲモ明示セリ然レモ未タ曾テ一  
片ノ紙幣ツリニ實際ニ拂渡サレタルモノハアラサリ  
シト（此事ハ載セテ「ゼイ、ガルニイ」氏著理財論第四百九  
ペイペニアリ）  
夫レ「ミラボー」氏ハ曾テ紙幣ヲ目シテ暴虐弊害虚意ノ  
養育器ト云ヒ又真ニ「癸犯汚吏ノ酒飲ヲ張ル」徒用ニ  
而已是レ屬セルモノト迄ニ云ヒシ人ナリシカ今ノ土  
地抵當紙幣ノ方ニ左袒シ其情性全力ヲ尽シテ以テ土  
地抵當紙幣ニ蓋シ大ニ切論痛議スル所アリタリサ  
レハ同氏ノ言ニ「抑モ佛國ノ土地抵當紙幣ノ如キ

確然タル官有地ノ抵當トシテ發行セシモノヨシテ彼  
強迫通用ニ以テタル通常ノ紙幣ト類似セシモノト欲  
スト虽得ヘカラス其然ル所以ノモノハ他ナシ抑モ  
土地抵當ノ紙幣タル現ニ不動産ヲ抵當トシテ發行ヤ  
シモノナリ其不動産ハ即チ今日我人カ現ニ生活スル  
土地ニシテ凡ソ人間所有物ノ中ニ就テ最モ確實ナル  
モノナレハナリト此事載セテ「ホワイ」ト氏著「ベイパー」  
モニ、エンフレーション、エンフレーショント題セル小冊  
子中ニアリ

當時ノ論勢右ニ述フルカ如クナリシニ依リ土地抵當  
紙幣ヲ發行シテ以テ世上ニ通用セシメタリ然ルニ其  
後未タ幾許ナラスシテ猶ホ其増發ヲ欲スルノ萬已ム  
ヲ得サルニ至リタリ然ルニ發行一件ニ付テ真ニ可否

ノ論ヲ發セシハ第一回ノ紙幣發行ニ付テ而已ニシテ  
第二回ノ増發ニ付テハ左マテ議論アラサリシナリ是  
レ猶ホ其後千八百六十二年發行合衆國合法紙幣ノ例  
ニ於ケルカ如クナリシ

尤モ「ターレイランド」氏ノ如キハ實ニ第二回ノ増發ヲ  
不可トセリ蓋シ同氏ハ最前ニアリテハ實ニ其發行ヲ  
可トスルヲ主張セシ人ナリシカ第二回増發ノ議ニ  
付テハ異論ヲ主唱シ其持前ノ才氣ヲ揮フテ以テ増發  
ノ舉ノ主眼ヲ打破リタリ其言ニ曰ク紙幣ヲ増發スル  
モ可ナリ然リト虽其増發ノ程度ハ人民カ正貨壹千  
フランクノ代リニ紙幣一千フランクヲ受取ラントヲ  
強ヒラル、程ニ於テス、然ルニ若シ人民カ紙幣一  
千フランクノ代リニ正金一千フランクヲ付與セント

ヲ余儀ナクセラル、程ニ於テハ決シテ之レヲ増發ス  
ヘカラスト  
「ホワイト」氏ハ其著「ペイパー、モニー、エンフレイション、  
エン、フランス」ト題セラル一小冊子中ニ曰ク此語簡ナル  
カ如シト雖其語氣中ニ紙幣増發ノ可非論ヲ包括セ  
リ實ニ此語ノ如クセハ増發ノ一トシテ舉行スヘカ  
ラスト

「ターレイランド」氏ハ斯ノ如ク其持論ヲ主張シ増發ノ  
可否ヲ論辨セシト雖其論其意ノ當時ニ行ハレサル  
ヲ知レリ「ニツケル」氏ノ如キモ亦矢張り増發ノ弊害  
ヲ豫察先考セリ然ルニ議院ニ於テハ嚮キニ第一回ノ  
紙幣ヲ發行シタレ其幣害ヲ毫モ顯然トシテ生セサ  
リシカハ其精神益々増張シテ紙幣ノ増發ヲ主張セリ

加之當時一時ハ所謂「デヨン、ロー」ノ凶靈ヲシテ蘇生セ  
シメタルノ色アリタリ

斯ノ如キ勢威ナリシニ由リテ土地抵当紙幣ノ主張論  
者ハ猛論ヲ發シ攻撃ヲ試ムルヲ是レ事トセリサレ  
ハ「ミラボー」氏ノ如キハ抑モ金銀ノ両者ハ只第二ノ術  
ニ於テ能ク使用セラル、而已ト説ケリ又曰ク抑モ佛  
國今日、紙幣ハ最大確實ノ不動産ヲ抵当トシテ發行  
シタル紙幣ナリ而シテ其不動産ハ凡ソ諸物ヲ生産ス  
ルノ土地乃チ是レナリト  
然ルニ今日世上ニ傳説スル所ノモノヲ聞クニ紙幣ハ  
超過スヘシト抑モ所謂其紙幣トハ如何ナル紙幣ヲ云  
フモノナルカ論者ノ説ク所ノ紙幣ハ若シ確乎タル不  
動産ヲ抵当トセサル紙幣ナラバ固ヨリ論者ノ言ノ如



ク超過スヘシ然レモ不動産タルノ土地ヲ抵當トシテ  
發行シタル紙幣ナラハ決シテ右様ノ憂患アルコトナシ  
ト云々

又曰ク

以上ニ開陳スル所ノ如クナルニ依リ凡ソ世間ニ今一  
般流行スル土地抵當紙幣過度發行ノ恐レ程大間違ナ  
ルモノハアラサルヘシ抑モ今日負債ヲ辨償スルナリ  
兵卒ニ手当ヲ給與スルナリ其他革命ヲ起スナリ其之  
レヲ為シ得ルハ一ニ此ノ土地抵當紙幣ノ在ルニ是レ  
因テナリ

抑モ土地抵當紙幣タル唯ニ皮相ノ見而已ヲ以テセバ  
或ハ超過ノ憂患アラントノ恐レヲ来スアリト雖モ其  
實決シテ然ラス其紙幣ハ一旦官有地ヲ抵當トシテ發

九

行シタル後又土地買入レノ為メニ實ニ其代料ニ供用  
スルヲ以テ其紙幣ハ決シテ超過スル能ハス猶ホ近ク  
例ヲ引テ之レヲ証センニ大氣中ノ濕氣ハ決シテ超過  
セサルト一般ナリ蓋シ其濕氣ハ若シ苟モ超過スルコ  
トアルハ下リテ小川ニ落チ夫レヨリ轉シテ大河ニ  
至リ終ニ轉流シテ大海ニ入りテ以テ何レハカ消失散  
布セルモノナリト

ミラボー氏ノ論スル所等以上ノ如キ有様ナリシニ依  
リ千七百九十年第九月令シテ以テ八億フランクノ増  
發ヲナスコトニ定メタリサレハ議院ノ中ニテ増發不可  
ノ論者ハ大ニ望ヲ失ヒカヲ落セシトハ雖モ猶ホ其不  
可黨ノ員數四百二十三名アリタリ然ルニ之レヲ可ト  
スル方ノ黨員ハ五百八名アリタリ

双方ノ負教右ニ竭載セシ如クナレハ不可黨ノ負教モ  
可ナリ多数アリシ然ルニ右ノ不可黨ノ人氣ヲ和セン  
カ為メニ爰ニ於テカ令ヲ下シテ以テ凡ソ發行紙幣ノ  
内一旦大蔵省ノ收入スル所トナリタル分ハ必ラス之  
レヲ燒棄スヘキモノトシ且ツ何レノ場合ニ於テモ發  
行紙幣ノ総額ハ決シテ十二億フランク以上ニ出テサ  
ラントヲ嚴命セリ

然ルニ議院ニ於テハ多少ノ異論アルニモ拘ハラズ千  
七百九十一年第六月十九日断然此嚴令ヲ破リテ以テ  
實ニ六億フランクノ紙幣ヲ増發セリ

紙幣ノ増發斯ノ如ク陸續トシテ止マヌ巨萬ノ發行高  
ニ至リタルヲ以テ已ニ本書第百九十三「ペイヂ」ニ載録  
シ置タル所謂「グレスハム」法ナルモノノ行ハル、所トナ

リテ正貨ハ流通上ヨリ其跡ヲ隱スニ至リタルサレハ  
大ニ天下ニ令シテ以テ凡ソ今日ノ場合ニ至リテ徒ニ  
金銀ノ正貨ヲ蓄積シ置キ世間ニ通用セシメサル者ハ  
乃チ自由ノ公敵ナリト百方其輩ノ正貨ヲ流通セシメ  
ント欲シタレ氏寸効勿リシナリ蓋シ当時佛國革命政  
府ハ土地ヲ没入シ得タリト虽氏余輩カ已ニ前文ニモ  
開陳シ置キタル通り其土地ノ價ヲシテ従前ノ如クナ  
ラシムルノ力ナカリシナリ且又其政府ハ土地抵当ノ  
紙幣ヲ發行シ得又之レヲ合法貨幣タラシメ得ルト虽  
氏「タレイランド」氏が議院ニ忠告シタル通り爰ニ甲  
ナル者アリテ乙ナル者へ兼テ正貨ニテ「ギルデン」ク  
ヲ貸与シ置タルニ政府ハ其人ヲシテ正貨ノ代リニ紙  
幣ニテ「ギルデン」クヲ受取ラシムルノ力ハ之レアリ

ト虽氏猶ホ其人所持ノ正貨壹千フランクヲハ紙幣壹千フランクカ若クハ壹萬フランクト無理ニ其人ヲシテ交換セシムルハ能ハス尤モ其之レヲ交換スルハ其人ニ取リテ利益アレハ固ヨリ論ヲ俟タスト虽氏苟モ然ラサレハ斯クナス能ハサルナリ抑モ当時正貨ヲシテ其流通ヲ佛國ニ絶シメテ以テソレヲシテ海外ニ流出セシメタルハ是レ自己利主義ノ致ス所ナリシト云ハ、蓋シ佛國ノ執政家ヲ初メトシテ諸新聞記者モ亦成程左様ナリトハ承認セサルヘシ夫レ佛國發行紙幣ノ不信憑ヲ増加シ随テ金銀ノ欠乏ヲシテ益ク熾ナラシメタルハ佛國ノ公敵ヲ初メトシテ英國并ニ「ボルボン」ノ間者ガカ佛國ノ自由ヲ倒滅セシトテ其計ヲ為セシニ因テナリ

以上論ヤシカ如ク陸續紙幣ヲ増加スルニ随テ金銀ノ両貨ハ益々濫出ヤシヲ以テ今ヤ佛國ノ殖産衰減倒廢スルノ域ニ至レリサレハ路易十四世ノ物事ニ拘泥固執ナルモ路易十五世ノ短才怠慢事ヲ失錯シ安キモ殆ント一百年ノ久シキ猶且ツ為シ得サリシ所ノモノ今此紙幣發行ノ一擧ニ依リテ僅々數ヶ月ノ間ニ仕遂ラレタルナリ乃チ先ツ其一ニヲ略記セシニ凡ソ稅則ノ力ニ因リ稅関ノ勢ニ依リテ以テナシ得ヘキノ事ハ皆一トシテ為サレサルハナク猶ホ夫レ而已ナラスハルマニジリノ大製造所數ヶ所ハ皆閉鎖スル所トナリ其他諸地ノ製造所モ亦皆陸續踵ヲ接シテ閉業ニ至リ全國中職工ノ其職ヲ失フモノ巨萬ノ多キニ上リタリ云

抑モ千七百九十一年ノ春頃ニハ凡ソ何人タリトモ志  
百「フランク」ノ紙幣ハ其後一ケ年ヲ過ルモ果シテ志百  
「フランク」ノ購買カヲ有スヘキカ又ハ九拾「フランク」ニ  
下ルヘキカ或ハ又下リテハ八拾「フランク」ニ至ルヘキ  
カ若クハ猶又一層減落シテ六拾「フランク」ニ及フヘキ  
カヲ知リシ者ハ一人モ之レナシ然ルニ紙幣ハ其價陸  
続トシテ下落セルカ故ニ其結果ノ歸スル所爰ニ凡ソ  
財主ハ其資財ヲ商業ニ投スルヲ欲セサルニ至リタリ  
爰ニ於テカ起業興産ハ皆痛ク其勢ヲ殺カレ殆ント減  
絶ヤントスルノ甚域ニ迫マレリサレハ勞役ノ需用ハ  
猶ホ一層減少シ佛國ノ商業ハ實ニ衰微ノ極ニ達シテ  
僅ニ糊口ヲ凌クニ足リシ而已  
事状支レ然リ凡ソ萬般ノ物状皆斯ノ如ク慘状ヲ極ハ

メレカ故ニ痛ク金貸社會ノ利益ヲ害セシ而已ナラス  
猶且ツ中等社會ノ人々モ之レカ為メニ破産倒滅セル  
者少カラス猶且ツ下等社會ノ貧民ハモ其影響ヲ波及  
セリ當時ノ時勢斯ノ如キニ至リシヲ以テ佛人全社會  
ニ於テ凡ソ萬般諸品ヲ購求スルハ實ニ一種ノ投機  
事業トナリ其機ニ架レ一六勝負ヲ常職トセル投機高  
家ハ巧ニ買主ヲ其術策ニ墜レテ以テ莫大ノ利得ヲ占  
メタリ  
大統領「ホワイト」氏曾テ其著述書第三十「バイゲ」ヨリ四  
「バイゲ」ニ論シテ曰ク佛國革命黨中ニアリテ最モ威望  
ノ高キ論者ノ云ニ當時通商ハ皆死シ賭博ノ業通商ニ  
代リテ舉行セラレタリト  
商業衰頹シ金融壅塞スル斯ノ如キノ太レキニ至リシ

ヤ否ヤ忽テ米國殖民ニ類似セルノ現状ヲ呈スルニ至  
リタリ乃チ負債主社會ハ其負債ヲ弁償スルノ用途ニ  
充ンカ為メ立法官ヲ強迫シテ以テ紙幣増発ノ舉ニ出  
テシテ無恥ニ請求セシテ是レナリ  
爰ニ於テカ負債主社會ノ請求ニ應ジ新紙幣三億ヲ  
シクテ増発セリ然ルニ議院小教員ノ此増発ノ舉ヲ異  
論セシ者アリシニ付其抗抵力ヲ緩メ人民ノ恐怖ヲ和  
ラケ且ツ紙幣ノ下落ヲ底止セシメンカ為メニ大ニ國  
内ニ令レテ以テ現今流通ノ紙幣ハ決シテ十六億ヲ  
シク以上ニ超越スルヲ許ルサ、ルノ命ヲ下セリ  
大統領「ホワイト」氏ノ言ニ曰ク此制限令ノ效力如何ナ  
リシヤハ左ノ実事ヲ以テ判断スルニ足レリソハ他ナ  
シ此制限令ニ先立ツテ漸ク一年以前ニ拾貳億ヲラン

一三

クニ通用額ヲ制限スルノ令ヲ發シタルニ終ニ其制限  
ノ破レタル而已ナラス僅ニ一ヶ月以前ニ令ヲ發シテ  
以テ嚴ニ紙幣ノ通用額ヲ拾四億ヲランクニ限リシモ  
ノモ矢張亦無効ニ歸セシテ是レナリト  
議院ノ突令其終ヲ完フセサル右ニ開陳セル「ホワイト」  
氏ノ言ノ如クナルニ依リ一語ヲ以テ評ヲ下サハ議院  
ノ約束ハ恰モ酒客ノ約束丈ノ效アル而已ニシテ其他  
ニ毫モ效驗ナキモノナリ  
千七百九十二年二月ニ至リ土地抵當紙幣ノ下落スル  
益太マシクシテ其平價ヲ下ル三割餘ニ至レリ然ルニ  
同年ノ春夏二季ニ又更ニ各三億ヲランクノ増発ヲナ  
セリ斯クテ十二月ニ至リ普ク國內ニ布令シテ以テ前  
後發行シタル所ノ紙幣ハ三拾四億ヲランクノ多キニ

七  
歳  
首

登リ其内ニテ六億「フランク」ハ已ニ燒棄ニ付シ残額ニ  
十八億「フランク」ノ紙幣ハ現ニ流通スル旨ヲ世ニ公示  
セリ  
爰ニ至リテ更ニ一種ノ新物ヲ以テ紙幣ノ抵當トナス  
ニ至リタリ乃チ寺地ノ没入セシモノヲ抵當トシテ以  
テ紙幣ヲ発行セリ  
當時ノ制ハ移住セシ貴族ハ皆之レヲ佛國ノ敵トナシ  
テ以テ其所領ノ土地ヲ取上ケンカ故ニ紙幣ヲ発行ス  
ルノ材料ヲ大ニ備ヘタリ此時ニ當リ「ミラボ」氏ハ右  
ノ紙幣ハ決シテ超過セサルベキヲ佛國人民ニ保証  
セリ然ルニ紙幣ハ尚ホ依然トシテ増殖ノ勢アリ陸續  
トシテ大藏省ヨリ増發スルニ随テ正貨缺乏ノ哭聲ハ  
益々々ノ勢ヲ逞フセリ

夫レ正貨缺乏ノ哭聲世上ニ囂々スルヤ忽チ又他ノ哭  
声ヲ喚起セリ是レ紙幣超過シ正貨缺乏ヲ告ルノ日ニ  
於テ古今ニ觀ル所ノ顛像ニシテ固ヨリ怪ムニ足ラス  
サレハ此時ニ當リ諸街ニ黨與暴起シ萬死以テ食ヲ求  
ムルヲ是レ事トセリ又飢餓ニ迫リタル徒ハ商店土藏  
等ニ亂入シテ掠奪ヲ是レ事トセリ又都下ノ人民ヲ飢  
餓ニ救ハンカ為メ暴激以テ政府ニ迫マル太レク諸吏  
ノ如キハ其俸給トシテ受取ル紙幣ノ下落スルニ依リ  
大概其職ヲ辞セシカ故ニ辛フシテ百般ノ事務ヲ當時  
ニ維持スルノ苦域ニ迫リタリ  
斯ノ如キ狀勢ニ至リタルニ依リ漫リニ法令ノカヲ藉  
リテ以テ其下落ヲ制止セントニ汲々セリ是レ常勢ノ  
然ラシムル所ナリサレハ米國革命政府ノ日ニ於テ施

行セシ如キ法令ヲ設ケテ以テ紙幣ヲ極高價ニセシト  
セリ斯ク法令ヲ布キタレハ猶ホ一層食物薪等ノ供給  
ヲ減少スルノ結果ヲ呈セシ而已其然ル所以ノモノハ  
他ナレバ此等ニ品ノ生産者ハ相當ノ價格ヲ取リテ  
以テ其生産物ヲ賣渡スルヲ禁止セラレタルカ故ニ其  
品物ヲ市場ヨリ引去リタレハナリ  
此時ニ當リ佛國諸市都ノ庶民食物ノ救助ヲ仰キタル  
其状ハ猶ホ海洋ニ漂流セル水夫ノ如クナリシ抑モ右  
ノ紙幣タル不動産ヲ抵當トシテ発行シタルモノ即チ  
吾人カ足下ニ踏ム所ノ土地ニシテ凡ソ物ヲ産スルノ  
源ハ專ハラ爰ニアルモノヲ抵當トシテ発行シタルモ  
ノナルニ猶ホ依然トシテ其下落ヲ来シ底止スル所ヲ  
知ラサルノ太シキニ至レリ然ルニ當時佛國革命政府

ハ寺院並ニ諸國ヲ一撃シ下ニ打破リ佛國全國內ノ不  
動産三分ノ一餘ヲ没入シ猶ホ農ニ僧ニ貴族ニ凡ソ更  
ニ有罪ニ決シタル佛人ヲ毎朝斬首ノ嚴形ニ處スルノ  
餘猶ホ銀貨ノ打歩ヲ制禦センカ為メ其最上無限ノ強  
迫カヲ尽クセリ今其大畧ヲ陳センニ千七百九十三年  
四月十一日大ニ國內ニ令シテ以テ正金ヲ購求スル  
ヲ嚴禁スル旨ヲ命セリ然ルヲ若シ犯則ノ者アルニ於  
テハ六ケ年間足械ノ刑ニ處スルト定メタリ然ルニ  
其後八月ニ至リ又一法ヲ設ケテ以テ凡ソ土地抵當紙  
幣ハ其表面ノ價格ヨリ以下ニハ販賣スルヲ嚴禁セ  
リ然ルヲ若シ犯則ノ者アルニ於テハ二十ケ年間鏈ニ  
擊クヘキト定メタリ其後間モナク更ニ亦令ヲ布テ  
以テ海外諸邦ヘ資本ヲ元入スル者ハ死罪ニ處スル

トセリ

千七百九十四年ノ年末ニ至リ土地抵當紙幣七億「フ  
 ンク」ヲ發行セリ其次ハ千七百九十五年五月ニ至リ拾  
 億「フランク」ヲ發行シ七月下旬ニ至リ拾六億「フランク」  
 ヲ發行シ千七百九十六年ノ初頭ニハ四十五億「フラン  
 ク」ヲ發行セリ而シテ右ノ四十五億「フランク」ノ中現  
 流用セシ者ハ三十六億「フランク」ナリキ（此事載セテ「ホ  
 ワイト」氏ノ著書第五拾三四ノ頁「バイダ」ニアリ）  
 「アレクソン」氏ハ其著述佛國理財史ト題セル書中ニ尤  
 ノ一表ヲ載録シテ以テ佛國紙幣ハ下落ヲ一覽スルノ  
 便ニ供セリ乃テ正貨貳拾四「リール」ニ付土地抵當紙  
 幣ノ相場左ノ如シ

千七百九十五年四月一日 二百三十八

同年五月一日	二百九十九
同年六月一日	四百三十九
同年七月一日	八百八
同年八月一日	八百七
同年九月一日	千百一
同年十月一日	千二百五
同年十一月一日	貳千五百八十八
同年十二月一日	三千五百七十五
千七百九十六年一月一日	四千六百五十八
同年二月一日	五千三百三十七

斯ク下落ノ勢太シクシテ前後一ケ年ヲ出テサルニ五  
 千三百三十七「フランク」ノ相場ニ至リ低廉モ亦低廉ヲ  
 極ハメタルノ未終ニ壹百「フランク」ノ紙幣ヲハ五「イ  
 ー



ス<sup>レ</sup>六<sup>デ</sup>ニヤ<sup>ニ</sup>テ一般ニ両替スル<sup>ト</sup>ハナリタリ尚ホ  
更ニ約云セハ四<sup>ポ</sup>ンドノ紙幣ハ正貨三<sup>ペ</sup>ンス以内ニ  
相當スル<sup>ト</sup>ハナリタルナリ<sup>トウエツス</sup>氏著經濟學  
進歩論第二百六十三<sup>ハ</sup>イデ<sup>コ</sup>リ引用ス<sup>ル</sup>  
抑モ土地抵當紙幣ノ斯ク當時ニ下落セ<sup>レ</sup>所以ハ自耳  
義<sup>ス</sup>ウエ<sup>ソ</sup>ル<sup>ラ</sup>ント<sup>ド</sup>及ヒ英國ノ三ヶ國ニ於テ盛ニ佛  
國ノ紙幣ヲ偽製セ<sup>レ</sup>ニ依リ其下落ヲ促シタルハ固ニ  
リ論<sup>フ</sup>埃<sup>タ</sup>ス<sup>レ</sup>テ明亮ナリ殊ニ英國ノ如キハ曾テ米  
國ノ革命ニ際シ其發行紙幣ヲ質造シタル時ノ如ク英  
政府ヨリ直接ニ此恥<sup>ツ</sup>ベキノ惡業ヲ獎勵シタルヲ信  
ス<sup>レ</sup>ノ理在<sup>ル</sup>アリ

當時佛國ハ其正貨ヲ悉ク海外ニ流出シ尽クシタルハ  
乃チ尤ノ一事ヲ以テ推シテ知<sup>ル</sup>ニ足<sup>レ</sup>リ時方サニ千  
七百九十六年ノ初頭大將<sup>ボナパルト</sup>ガ伊國ニ至リテ  
兵ニ將<sup>タ</sup>テシカ<sup>為</sup>メニ國ヲ出<sup>ル</sup>ニ臨<sup>ミ</sup>其軍用箱ニ金  
貨二千<sup>ル</sup>ウ<sup>イ</sup>ヲ入<sup>レ</sup>テ以テ其車ニ載セテ運搬セリ然  
ルニ此二千<sup>ル</sup>ウ<sup>イ</sup>ノ金貨コソ當時ノ有司カ外國ニ戰  
闘<sup>フ</sup>閑<sup>ク</sup>ノ軍資ニ供セシカ<sup>為</sup>メ漸ク<sup>ボナパルト</sup>ノ望  
ニ應<sup>ス</sup>ル<sup>ヲ</sup>得<sup>タル</sup>金額ナリシ<sup>ト</sup>是<sup>レ</sup>ナリ  
<sup>グ</sup>レ<sup>ツ</sup>ソ<sup>ン</sup>氏<sup>ノ</sup>言<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>猶ホ今日ニ至<sup>リ</sup>テモ當時ノ  
一軍令ノ現<sup>ニ</sup>行<sup>ハル</sup>ハモノアリ<sup>ソ</sup>ハ他ナシ<sup>バ</sup>ル<sup>セ</sup>イ  
<sup>ル</sup>氏<sup>ノ</sup>許<sup>允</sup>セ<sup>シ</sup>令<sup>ニ</sup>シ<sup>テ</sup>允<sup>ソ</sup>將<sup>校</sup>タル者ハ出軍ノ支  
度料トシテ一人ニ付四<sup>ル</sup>ウ<sup>イ</sup>ツ<sup>ハ</sup>ヲ受取<sup>ル</sup>ヘキ<sup>ト</sup>ト  
定<sup>ム</sup>ル<sup>ト</sup>是<sup>レ</sup>ナリ  
サテ當時ノ紙幣下落スル<sup>ス</sup>ノ如キノ勢ヒニ迫<sup>リ</sup>タル  
ニ依<sup>リ</sup>爰ニ最後ノ財政ヲ施<sup>ス</sup>ニ至<sup>リ</sup>タリ乃チ紙幣ノ

名称ヲ改メ其圖画等ヲ変シテ以テ新紙幣ノ發行ニ出  
テタルノ舉是レナリ是レ此舉ハ前文<sup>米</sup>國「コンチクテ  
カツト」發行不換紙幣ノ未歷中ニ於テモ已ニ之レアル  
ヲ視タリ乃チ新紙幣旧紙幣ノ二様ニ區別セシモノ是  
レナリサテ又米國「ロッド、アイランド」ノ如キニ於テモ  
新紙幣ヲ發行スルニハ毫モ旧板ヲ用セス全ク新製ノ  
板而已ヲ以テ製造セシハ深ク意ヲ用ユルニ出テタル  
「ハ已ニ前文ニ閱陳セシ所ナリ」

米國「マツサチユーセツ」ニ於テモ亦千七百四十七年  
ニ至リ此新旧紙幣ヲ別ツノ會計法ヲ施シタル「數回  
ニ至レリ乃チ「マツサチユーセツ」ノ發行紙幣ハ之ヲ  
大別シテ旧紙幣中紙幣新紙幣ノ三種トナシ新紙幣  
ノ如キハ尚更ニ小別シテ以テ第一新紙幣第二新紙幣

ノ二様ニ分レリ(此事載セテ「ソムナー」氏著書三十一「ペ  
イゲ」ニアリ)

以上ハ米國殖民地ノ發行紙幣ノ未歷ヲ引用シタルモ  
ノナルニ佛國ニ於テモ其革命政府ノ廟策意ノ如クナ  
ラス終ニ千七百九十六年ニ至リテ如何トモ致シ難キ  
ノ苦域ニ迫リタルニ依リ矢張革命政府モ又米國殖民  
地全様ノ會計法ヲ施スニ至リタリ爰ニ於テカ「テルリ  
トリアル、マンデイツ」紙幣ヲ發行シテ以テ「アツレグニ  
ヤ」紙幣三拾ニ肩「テルリトリアル、マンデイツ」紙幣一ヲ  
以テ「アツレグニヤ」紙幣ニ代用スルノ令ヲ發布セリ而  
シテ右ノ「マンデイツ」紙幣ハ其所有人ノ望ニ應ニ需求  
次第直ニ土地ヲ以テ交換スヘキモノトセリサテ又  
「マンデイツ」紙幣發行額ノ内ハ億「フラン」クヲ以テ「アツ

シグニヤ紙幣ヲ銷還スルノ用途ニ供シ其残額ハ之ヲ  
政府ノ急需ニ適用セリ  
抑モ「マインデイツ」紙幣ハ其初メ発行額ニ制限ヲ立テハ  
以テ世ニ流通シタルニ其後暫時ノ間ハ其價騰貴シテ  
其額面ノ價ヨリモ昇ルヲ八割ノ高價ニ至レリ然ルニ  
尔来忽テ増發ノ舉ニ出タルヨリ其下落ノ迅速ナル却  
テ「アツレグニヤ」紙幣ノ下落ヨリモ太シキニ至リタリ  
サレハ増發ノ後未タ數日ヲ經サルニ早ヤ「マインデイツ」  
紙幣ハ僅ニ其額面ノ價格ノ千分ノ一ニスラ過キサル  
而已ニ下レリ「マクレオツド」氏ノ言ニ曰ク「マインデイツ」  
紙幣一ハ「アツレグニヤ」紙幣三拾ノ價ナリシカ故ニ「ア  
ツレグニヤ」紙幣ハ乃チ「マインデイツ」紙幣ノ三萬分ノ一  
ニ相當スルト算定シテ不可ナカルヘシト

右ノ「マインデイツ」紙幣ハ千七百九十六年七月一日以前  
ニ其局ヲ結了シ同日ヲ以テ其制ヲ舉ケテ悉ク廢滅セ  
リ  
「ブレツソシ」氏ハ其著述佛國理財史第二十二三ノ兩  
「バインデ」論シテ曰ク此時ニ當リ「レスプリポレ」ヨ  
ス。メ。タ。リ。ポ。ク。ス。ト。稱スル第三ノ紙幣ヲ其主管ノ官  
衙ヨリ發行セリ然レ氏此紙幣ノ通用ハ寔ニ暫時ノ  
間ニスラ過キスレテソレヲ摺出スノ板ヲ彫刻スル  
ノ時日モナカリシ程ナリト  
爰ニ於テカ更ニ天下ニ令シテ以テ凡ソ何人ト雖氏其  
好ム所ノ貨幣其好ム所ノ約ヲ以テ隨意ニ商業取引ヲ  
ナシテ不苦旨ヲ布告セリ然ルカ故ニ「マインデイツ」紙幣  
ノ如キハ毎日大藏省ヨリ公布セル相場ヲ以テ而已授

受セラル、トトハナリタリ

「マクレオツド」氏ハ其著「エコノミカル、ヒロソヒ」第三  
百五拾三「バイダ」ニ論シテ曰ク斯ノ如ク普ク天下ニ令  
レテ以テ時相場ヲ以テ紙幣ヲ授受スルトトナシ非常  
ノ打撃ヲ紙幣ニ試ミシヤ否ヤ忽チ正金ヲ流通上ニ再  
視スルニ至リタリ

「テイレル」氏ノ曰ク巨額ノ正金ヲ流通上ニ目撃スルニ  
至リタリ殊ニ西班牙貨「ピアストル」ノ如キハ未ダ「マ  
ンデイツ」紙幣ノ通用セシ間スラ佛國ノ内部諸地方  
ニ流通セリト

斯ノ如ク正金再出ノ模様アルヤ其潜伏所ヨリ市場ニ  
現出スル正金實ニ莫大ノ額ナリ然ルニ萬般諸商品ノ  
如キハ其荷主タル者正金ヲ得シトニ戀マスルニ依リ

自ツカラ諸品價頗フル低廉ナルヲ以テ為メニ海外諸  
邦ヨリ莫大ノ正貨ヲ佛國ニ輸入セシムルニ至リタリ  
爰ニ於テカ是レ迄久シク佛國ノ為メニ不利ナリシ為  
換相場モ立刻ニ一変シテ佛國ノ利トナルニ至リ暫時  
ノ間ニ正金ノ通用ヲ連綿回復スルニ至リタリ佛國當  
時ノ勢斯ノ如クナリシヲ以テ悚然トシテ怕ルヘキ「ナ  
ポレオン」教戦ノ際ニ於テモ正金ノ本位ヲ平素全價ニ  
維持スルヲ得タリト

正金拂停止令ヲ設ケシ時代ノ英國財政

右ニ引用セシ「マクレオツド」氏ノ所論中其末文ハ以テ  
不換紙幣ノ一舉ニ於ケル佛國ノ經歷ト英國ノ經歷ト  
ヲ密着セシムルモノナリ

頃ハ千七百九十三年英佛兩國間ニ戦端ヲ開キタリ然

ルニツク氏ノ豫算スル所ニ依レハ英國ノ正貨在高一  
 ハ貳千貳百萬ヨリ貳千五百萬餘ニ内外セシ外ニ愛爾  
 蘭ヲ除キ大英ノ通貨ハ悉ク銀行紙幣ニ係レリ而シテ  
 其之ヲ發行セシ場所ハ英國銀行其他地方銀行(其行數  
 百ヶ所ニシテ當今ノ如ク合本銀行ト申ス迄ニテナク  
 小資本ノ商賈ノ創立ニ出テタル銀行間々アリタリ)其  
 他亦僅々タル堅牢ノ蘇格蘭諸銀行等ナリキ  
 千八百十九年上院調査掛ノ豫算ニ依レハ大英國ノ流  
 通貨幣在高ハ即チ左記ノ如シ

正貨	二千五百萬封度
英國銀行紙幣	千五十萬封度
地方銀行并ニ蘇格蘭 諸銀行紙幣	七百萬封度

合計

四千貳百五十萬封度

サテ英佛ノ戰鬪三ヶ年ノ久レキニ涉リタレハ其間ニ  
 ハ未タ正金拂停止ノ舉モナク又斯ル結果ヲ他日ニ来  
 スハキノ恐レヲ毫モ懷カサリシヤ太タ明ラカナリサ  
 レハ當時ニ在リテハ正貨拂停止ノ如キハ必ラス戰鬪  
 ノ際ニ陪從スヘキ舉杯トハ思考セラレサリシナリ然  
 ルニ英政府ハ千七百九十六年ヲ以テ軍費ニ供セシカ  
 為メ英國銀行ヨリ巨額ノ借用金ヲナセリ爰ニ於テカ  
 約束通り其借入金ヲ弁償スルアタハスレテ或ハ其弁  
 償ノ期ヲ延滞シ或ハ弁償ヲ拒ミテ以テ大ニ不滿ヲ英  
 國銀行ノ頭取諸君ニ懷カシメタリ

「リカルド」氏ハ其著述「ハイ、プライイス、オス、ブリオニ」  
 論(高價)ト題セル一書中ニ曰ク抑モ正金拂停止ノ舉ノ  
 地金

當時 = 必要ナリシハ英國銀行ト政府トノ關係余リ  
親密 = 過キタルノ致ス所ナリシト又其停止ノ舉ノ  
一時 = 止マラス連綿久シキ = 涉リタルモ皆是レ同  
原因 = 出ルモノナリト

斯ノ英政府ハ年償ノ期ヲ延滞シ償却ヲ拒ミシカ故ニ  
英國銀行ハ進退維谷リ爰ニ其通用紙幣ヲ減縮スルノ  
緒ヲ開キタリ恰モ此ノ時ニ當リ佛軍浸入ノ報ヲ街頭  
ニ傳ヘ俄然英國沿海ノ沖ニ佛兵襲來ノ急報陸續トシ  
テ英國ニ達セリ爰ニ於テカ地方銀行ノ紙幣所持ノ者  
ハ其銀行ニ掛ケ付テ以テ其紙幣ノ交換ヲ促ス者踵ヲ  
接シテ群集セリ為メニ地方銀行ハ英國銀行ニ向テ巨  
額ノ需求ヲナセリ以上説ク所ハ交換紙幣ノ來歴ニ係  
ル

斯ノ如ク地方銀行ヨリ英國銀行ニ需求スル所巨額ナ  
ルニ依リ英國銀行ノ準備正金ハ二月二十七日ニハ減  
シテ尅百萬封度ニ下レリ爰ニ於テカ英政府ヨリ一令  
ヲ英國銀行ニ下シテ以テ追テ何分ノ儀ヲ議院ヨリ沙  
汰スル迄ハ而後正金ヲ拂渡スヲ禁止セリ其後五月  
ヲ以テ議院ヨリ一令ヲ發布シテ以テ正金拂ヲ制禁ス  
ル旨ヲ英國銀行ニ命セリ

此時ニ當リテ英國銀行ニ於テハ僅ニ貳拾<sup>シ</sup>シルリン  
グ以下ノ高ニ向テハ正金ヲ拂出シ得シ而已夫レ然  
リ然リト雖モ若シ何人ニ限ラス正金ヲ英國銀行ニ  
預ケ置タル者アルニ於テハ其預ケ高五百封度以上  
ニ出ルモノニ限リ其預ケ高ノ四分ノ三迄ハ其預ケ  
主ニ正金ヲ年償シ得シモノナリ

議院ハ斯ノ如キ令ヲ發シテ正金拂ノ舉ヲ制禁シタル  
ニ英國銀行ハ猶ホ正金拂ヲ行フノ念ヲ懷キ頻リニ之  
ヲ欲シタルニ終ニ其許可ヲ得ルニ至ラス議院ヨリハ  
種々ノ條例ヲ發行シテ以テ右ノ所謂停止令ヲ又シキ  
ニ連續セシメタリ然ルニ英國銀行ハ當時夙ニ見ル所  
アリ若シ輿論ノ許スアラハ正金拂ヲ再行スルノ容易  
ナルヲ公言セリ  
サテ此正金拂停止ノ一舉ニ付テハ爰ニニケ條ノ疑問  
アリ抑モ其正金拂停止ノ舉起リシ時ニハ其舉ハ果シ  
テ萬避クヘカラサルモノナリシヤ是レ其一問ナリ抑  
モ其正金拂停止ノ舉ハ仮令ヒ一時之ヲ避ルヲ得ルモ  
終ニハ當時ノ如クニ成リ行クヘキモノナルヤ是レ其  
二問ナリ

其第一問ニ付テハ余輩漸然之ニ答テ其舉ハ避クヘキ  
ノ舉ナリトシ以テツトク「リカルド」西氏ノ高論ニ服ス  
ツトク氏ノ言ニ曰ク

余顧フニ抑モ正金拂停止ノ舉ハ當時ニ須要欠クヘ  
カラサル策ニアラスサレハ余カ考察スル処ニ據レ  
ハ若シ英國銀行ハ其正貨ヲ拂出スニ隨テ陸續其紙  
幣ヲ交換シ之ヲ燒棄シテ止マサリシナラハ當時ノ  
危急存亡ハ雲散霧消シタルナルヘシトノ一問ノ外  
毫モ疑ヲ懷カスト

「リカルド」氏ノ言ニ曰ク  
當時若シ英國銀行ハ依然トシテ正金拂ヲ舉行シテ  
止マサリシナラハ蓋シ其正貨竭盡スルノ日ヲ俟タ  
スレテ驚慌ヲ鎮靜シ人心ヲ安堵セシメタルナニヘ

シト

其第二問ニ付テハ以上ツク「リカルド」ナル而經濟家  
ヲ除キ輿論ノ歸スル所ハ激戦ニシテ戦闘ノ年月久シ  
キニ渉ルニ於テハ其間ニ正金拂ヲ停止スルハ實ニ不  
得止最後ノ急務トナスモノ多キニ似タリ抑モ輿論ノ  
視ル所斯ノ如キ所以ノモノハ蓋シ千八百六十二年合  
衆國ノ正金拂ニ堪ヘスレテ容易ニ屈シタルノ例ト千  
八百七十年ノ佛國ノ先例ヲ視テ現今ノ人心ハ其已  
ヲ得サルヲ太タ自証スル所多クキニ由テナリ  
サレハ「サー、アーチバルド、アリソン」氏ノ如キハ英國千  
七百九十七年正金拂停止ノ舉ノ當時ニ已ムヲ得サリ  
シ「ラ、頗フル主張シテ止マス其著述歐州史中ニ論  
テ曰ク

抑モ當時数年ノ久シキ連綿公衆ノ力ニ依リテ以テ  
戦闘ヲ閱キ且ツ其巨額ノ軍費ニ應スルヲ得タルハ  
皆是レ千七百九十七年ヨリ千八百十年ニ至ル迄數  
十年ノ間ニ大ニ紙幣ヲ増發セシニ因ルハ何人ト虽  
モ一人トシテ疑ヲ容ルヘカラサルモノナリト  
然ルニ同氏ハ猶ホ論シテ曰ク

若シ英國當時ノ形勢幸運ニ屬シ加之政府非常ノ英  
断決行アリテ以テ其數多ノ屬領諸國ノ需求ニ適應  
スル為メニ時ノ求メニ應シ好ム所ニ任セテ増發ノ  
恐レアル而已ナラス猶且ツ貿易ノ權衡如何若クハ  
外國諸邦出軍ノ軍用如何ニ由リテ以テ特別ノ時ニ  
而已發行スル譯ニ至ラサルノ恐レアル紙幣ノ制ヲ  
英國人ノ心中ニ創生セシムル「當時ニナカリタラ



シニハ其紙幣ヲ発行セサリシヨリ英國ハ其戦闘中  
ニアリテ其政界上ニ其國家ニ百般ノ利益ヲ享受シ  
タルナルヘシト云々

又曰ク

然ルニ當時英國ハ歐州大陸ニ出軍シ戦ヲ事トスル  
ニ依リ其數萬ノ軍ノ用途ニ供シ且ツ之ヲ維持セシ  
カ為メニ不得止巨額ノ正貨ヲ國內ニ需メ殊ニ金貨  
ヲ求ハルノ太シキヨリ其國內ノ正貨ヲ殆ト流出セ  
シムルニ至リタリ然ルニ恰モ下度此時ニ当リ又英  
國ニ於テハ其國內ノ信憑ヲ補助スル為メ若クハ軍  
備ノ用途ニ供スル為メ等ニテ正貨ヲ要スル最太シ  
キノ日ニ際セリ

英國當時ノ形勢斯ノ如クナリシニ依リ若シ英國ハ

斯ノ如ク海外ニ流出セシ正貨ノ趾ニ代ルヘキノ資  
金ヲ毫モ其國內ニ所持スルニ當時ニナカリシナハ  
抑モ正貨ノ流出斯ノ如ク夫レ太シキノ日ニアリテ  
ハ國家爰ニ倒滅セスンハアルヘカラスト

然ルニ「プロフェツソル、ソムナー」氏ノ如キモ又正金拂  
停止ノ舉ニ付其論ヲ陳セリ乃チ其著述「ヒストリー、ア  
メリカン、カーレンシー」ト題セル書中ニ曰ク

抑モ正金拂停止ノ舉ハ決レテ必要ノモノニアラス  
是レ實ニ經濟學上ニ於テ然リトナスモノナリト  
「プロフェツソル、ニユーコム」氏モ其著述「フギナン  
アル、ヒストリー、オス、ゼ、ユナイテツト、ステイツ」ト題セ  
ル書中ニ痛論切議シテ以テ同レク其停止ノ舉ノ必要  
ナラサル旨ヲ主張セリ其書中ニ曰ク

允ソ一邦國ノ兵力ナルモノハ其國ニテ軍事ニ轉用  
レ得ル所ノ殖産ノ多寡ヲ以テ其強弱ヲ量ルモノナ  
リト云々

夫レ其多寡ハ如何ナル種類ノ貨幣ニ限ラス其貨幣  
ヲ所持スルト否ヲサルトニ依テ増減セラル、モノ  
ニアラスト云々(唯貨幣ナルモノハ允ソ一國ノ負擔  
ニ付各人ノ持分幾許ナルヤヲ量リ易ラシムルカ故  
ニ詰リ右ノ轉用ノ事ヲ便ニスルモノニスラ過キサ  
ル而已)

夫レ然リ然ルカ故ニ允ソ兵力ナルモノハ邦國ノ産  
出力如何ニ是レ屬スルモノニシテ其盛衰ヲ以テ強  
弱ヲ量ルニ足ルモノナリト云々

水銀若クハ白金其他何品ニ限ラス其物ヲ以テ吾人

カ軍用品ヲ購買シ得ル所ノモノト等シク金貨モ亦  
戦闘ノ神經ニスラ過キスト

以上「ソムナーニユーコム」ノ両氏カ正金拂停止ノ舉  
ヲ不可トスル右ニ開陳スル所ノ如シ又余輩ノ如キモ  
曾テ「ナポレオン」ガ其數百戰ノ間味方ニ於テハ毫モ紙  
幣ノ用ヲ俟タサリシ一ヲ輕々看過スヘカラス

盖シ正金拂停止ノ舉ハ是レ經濟學上ノ純粹ナル疑問  
ニ屬スルヨリモ寧ロ理財上ノ一問ナリト明言スルモ  
盖シ不可ナルヘレ猶更ニ其意ヲ約言セハ抑モ此舉  
ハ當路ノ士カ經濟家ノ忠告諫言ヲ容レ併セテ深ク政  
畧上ノ考察ヲ懷テ以テ其如何ヲ決行セサルヘカラサ  
ルノ疑問ナリ

以上説ク所ノ如ク英國ハ當時不換紙幣ノ制ニ深入セ

シト虽此最初十一ニケ年ノ久シキ英國銀行百般ノ庶  
務ニ節度謹慎ナル其鞏固ナル為メニ紙幣ノ高ラシテ  
英國ニ通用シテ過不及ナカルヘキ程ノ正貨ノ額ヨリ  
モ著ルシク増發セサラシメタリ然ルニ千七百九十七  
年ヨリ千八百八年ニ至ルマテハ世上一般ニ英國銀行  
ノ紙幣ハ大ニ超過セシモノト信スルニ至リ實ニ衆口  
囂々タリキ

當時英國商業ノ不景氣ナル軍用ノ為メニ租稅ヲ賦セ  
シ結果ノ在ルアル為メニ市場ニ一大變動ヲ來シ若干  
種ノ品物ヲシテ其價ヲ騰貴セシムル非常ノ太シキニ  
至リタルカ故ニ不得已紙幣超過ノ信用ヲ衆心ニ生セ  
シムルニ至リタルナリ以テ物價ノ沸騰太シキヲ推知  
スヘシ輿論斯ノ如クナリシト虽此トーマス、ツーク氏

ハ爰ニ其紙幣超過ノ如何ニ付經濟ノ道ニ基キ統計ノ  
理ニ據リ最モ著明ナル調査ヲ遂ケテ以テ輿論ノ誤謬  
ニ出ル者ヲ証明セリ同氏調査ノ結局ハ之ヲ要スルニ  
正金拂停止ノ舉ヲ行シ以來最初十二ケ年ノ間ニハ為  
換相場ノ英國ニ利アリタル猶ホ彼千七百九十七年以  
前九十六ケ年間ノ平均相場ニ均一ナリ又千七百九十  
七年以前何年ニ限ラヌ十ケ年ヲ一纏ニシタル平均相  
場ニモ均一ナリトセリ  
然ルニ千八百九年ニ至リ爰ニ金貨ノ造幣價ト其英國  
銀行紙幣ニ對スル市價トノ間ニ太シキ差異ヲ生スル  
ニ至リタリ

當時會マ議院ヨリ令ヲ發シテ以テ金銀ノ兩貨ヲ溶  
解シ又ハ之ヲ輸出スルヲ法ニ依テ禁セントセシ

カ故ニ反テ錯雜混乱ヲ来スニ至リタリ「ホスキツソ  
シ」氏其著述「デブレレエーシヨシ、オス、ゼ、カールレンシ  
」ト題セル一小冊子中其事ヲ記シ置ケリサレハ其  
文ニ曰ク

故ニ金銀溶解輸出ノ禁止令ハ其大要乃チ左ノ如  
シ  
銀行紙幣ニ對シ真價大約貳拾四「シルリング」六「パ  
ン」ノ價アル重量ノ「ギニイ」金貨ヲ所持セル者若  
シ銀行紙幣二十一「シルリング」以上ニ之ヲ交換ス  
ル片ハ其者ハ罰金ヲ課シ併セテ禁錮セシムル  
モノトセリ然ルニ輕量ノ「ギニイ」貨ヲ所持セル者  
ハ大ニ幸福ヲ受ケルノ所持ノ輕量「ギニイ」貨ノ  
達スル相場乃チ九ノ貳拾四「シルリング」三「パン」ス

ニテ交換スヘキ旨ヲ法令ノ力ニ依リテ定メタリ  
ト

請フ今爰ニ造幣價ノ差ト市價ノ差トヲ記センニ當時  
本位金一「オン」ノ造幣價ハ三封度拾七「シルリング」拾  
「パン」半ナリレカ其市價ハ騰貴シテ千八百十一年ニ  
ハ四封度四「シルリング」六「パン」ニ至リ千八百十二年  
ニハ四封度拾五「シルリング」六「パン」ニ上リ千八百十  
三年ニハ五封度尙「シルリング」迄登リ千八百十四年ニ  
ハ猶ホ騰貴シテ五封度四「シルリング」ノ高價ニ及ヒタ  
リ  
斯ノ如ク千八百紀ノ初年ニ於テハ為換相場ノ動搖嘗  
ナラス隨テ諸物價ノ變動亦太シカリシヲ以テ為メニ  
英國諸論者ヲシテ此事ニ着目注意セシムルニ至リタ

リサレハ「ホイット」氏ハ千八百年ヲ以テ一書ヲ「ピット」氏  
ニ寄セテ以テ抑モ為換相場ノ下落スル並ニ物價ノ昇  
騰スル今日ノ如クナルハ畢竟英國銀行紙幣ノ過度増  
発ニ是レ歸スルイテ説キタリ爰ニ於テカ「サー、フラン  
シス、バトリリング」氏ナル者アリ一篇ノ答書ヲ「ホイット」氏  
ニ寄送セリ然ルニ亦「ヘンリー、ソレント」氏ナル者ア  
リ千八百二年ニ當リ紙幣信憑論ナル一書ヲ出版セリ  
乃チ同書ヨリ稜萃シテ已ニ前文ニ関陳シタルモノア  
リタリ  
扱又千八百三年ニ至リ「ロールド、キング」氏ナル者アリ  
「ソーツ、オン、ゼ、バンク、オス、イングラランド、レストリクシ  
ジョン」ト題セル一書ヲ出版セリ抑モ此書ニ付テハ「プロ  
フエツソル、セニオ」氏カ千八百四十六年ニ評ヲ下セ

レモノナリ乃チ其文ニ曰ク  
抑モ「ロールド、キング」氏著述ノ「ソーツ、オン、ゼ、バンク、  
イングラランド、レストリクシジョン」ナル一書ハ飽迄能  
ク紙幣ノ理論ヲ尽クシ論スル所頗フル正論ナルカ  
故ニ爾來四十年餘ノ久レキ討論切議ノ後モ其論ヲ  
増補修正スヘキ屢ナレ以テ真正論タル推知スヘキ  
而已ト  
「マクレオツド」氏ハ其著述「イコノミカル、セロソセイ」ト  
題セル書中第三百三「バイヂ」ニ右ノ「ロールド、キング」氏  
ノ主義ヲ論シテ曰ク  
抑モ地金ノ紙幣相場其造幣價ヨリモ騰貴スル今日  
ノ如キト外國為換相場ノ其相相場ノ制限ヨリモ依  
然トシテ下ニ位スル當今ノ如キハ是レ不換紙幣ノ

下落セシ証ニシテ而モ其下落ヲ量ルニ足ルモノナ  
リト

千八百九年ニ至リ地金ノ造幣價ト市價トノ差急遽増  
加セシニ依リ「ダビット、リカルド」氏ハ地金高價論ト題  
セル有名ノ一小冊子ヲ著述セリ然ルニ此小冊子中載  
録セル主義ヲハ「チャールズ、ボサンク」氏カ駁撃セシヲ  
以テ「リカルド」氏ハ更ニ一篇ノ答辨書ヲ編述セリ是レ  
此答弁書ハ世ノ称レテ以テ此大經濟學士ノ名作トナ  
スモノナリ

サテ此地金高價ノ一事ハ千八百十年ニ至リ殊ニ議論  
ノ注目スル所トナリ爰ニ議院ハ地金取調委員ヲ命ジ  
テ其事ヲ調査セシムルニ至リタリ其取調委員ノ長ハ  
「ホルナー」氏其任ニ當リ「ホスキツソン」氏ニ「ソルントン」

ノ両氏ハ皆是レ委員ノ中ニ加ハレリ斯クテ其委員ハ  
取調ニ従事シ千八百十年六月其報告書ヲ議院ニ送呈  
セリ而シテ其報告ノ主義ハ「リカルド」氏ノ主義ト彷彿  
タリ

「デヨプリン」氏ハ其著述「アナライシス、エインド、ヒスト  
リ」ト、オス、ゼ、カールンシ、クエツシヨニト題セル書  
中ニ蓋シ「リカルド」氏ハ其思想ニ地金取調委員カ信  
ヲ置サリシヲ以テ太タ不快ニ思フノ色アルヲ論  
セリ「デヨプリン」氏ハ猶ホ一步ヲ進メテ以テ抑モ許  
可ヲ得ス兼諾ヲ俟タスレテ人ノ思想ヲ借リタルヲ  
云ハシカ為メニ「ホルナー」デシグナル語ヲ發明ス  
ル迄ニ極論セリ

成程「リカルド」氏ハ其許可兼諾ヲ得スレテ「ホルナー」

氏カ其主義ヲ借リタルト思考スルナルヘシト虽  
氏他人ノ腦ニ依テ獨リ自ツカラ其名ヲ掲ケント求  
ムルノ責ヲ「フ」ラニシス、ホルナ「氏」ヘ及ホスハ理ノ  
正ニキモノト云フヘカラス現ニ「ホルナ」氏ハ「ゼイ、  
エ、モルレイ」氏ヘ一書ヲ寄セテ以テ左ノ打明ケタル  
事ヲ通セリ

抑モ當取調委員ノ報告書ハ其所論ノ趣旨ニ關ス  
ル主義中最モ古代ノモノノ外ハ一事ヲモ載セサ  
ル而已ナテス其古代ノ主義ト云ヒナカラ是レ迄  
已ニ教回世ニ公示セラレタルヨリモ一層不充分  
ニ涉リシカ故ニ今般ノ報告書ハ實ニ頗フル拙ニ  
流レ頗フル長文ニ涉リタルモノナリ  
サテ又今般ノ報告書ハ「ホスキツソソ」ソルニトシ

是ニ余ノ三名ニテ區々ニ草セシモノニシテ各一  
部分ツ、ヲ受持チ全体ノ文体ヲ一様ニスルノ念  
ナク又前後ヲ一ノ如ク接續セシムル等ノ考ナク  
シテ編述シタルモノニ係レリ夫レ然リ然リト虽  
モ今般ノ報告書中只一大功績ノ在ルアリソハ他  
ナシ今般ノ報告書中ニハ眞實ノ主義ヲ論シ併セ  
テ其主義ヲ考閱視スルヨリ生シ来ル所ノ一大弊  
害ヲ説ク所頗フル切実ナルト是レナリ  
爾来千八百十年七月十六日ヲ以テ「ホルナ」氏ガ「ゼ  
ツ」フレイ「氏」ニ寄セシ一書ニ依テ觀レハ同氏ハ報告  
書ノ主義ノ創起者ヲハ尚ホ廣ク世間ニ明知セスニ  
ハアルヘカラサルヲ欲スルモノ、如シ其「ゼツ」フ  
レイ「氏」ヘ寄セシ書中ニ左ノ一言アリ余爰ニ一言ノ

足下ニ報スヘキトアリ他ナレリ「リカルド」ムシエツト  
ノ西氏ハ昨年ノ歳末此ノ最大緊要ノ主旨ニ付公衆  
ノ注意ヲ喚起セシメタル紳士ナリ余ハ猶此等西氏  
ニ正道ヲ尽クサンカ為メ追テ論文ヲ足下ニ寄送ス  
ルトアルヘシト  
千八百十年ノ六月地金取調委員ノ報告一度世上ニ出  
テシヨリ爰ニ小冊子ノ一大戰場ヲ閱クニ至リ甲弁シ  
乙駁シ冊子ノ刊行陸續踵ヲ接シテ止マサリキサレハ  
此冊子ノ一大戰場コソ古今ノ經濟史上ニ於テ其比ヲ  
視サルモノナリ

余カ熟知スル所ニ由レハ英國ニ於テ地金論ノ小冊  
子完全完備ノ類集アルハ「ハートアールド」ニアル貴  
重ナル「ワトキンソン」氏ノ文庫是レナリ

地金取調委員ノ草セル報告書ノ主義ハ爰ニ「リカルド」  
氏ニ「ホスキッソン」ノ西氏之ヲ保守固護セリ然ルニニ  
論者ノ在ルアリテ之ヲ攻撃セリ尤モ此等ノ二者モ亦  
各其説ヲ異ニスル殆ト地金取調委員ト太々其説ヲ異  
ニスルアルカ如キノ状況アリタリ乃チ此等二者ノ中  
其一ハ英國銀行ニ政府ノ黨ナリ而シテ其説ハ紙幣  
ノ今日ニ増加スルアルトノ説ヲ駁シ又英國銀行ノ發  
行紙幣ニ限りテハ凡ソ良善ノ銀行法中ニ設ケナキ規  
律ヲ要用トスルトノ説ヲモ駁シタルモノナリ其二ハ  
乃チ紙幣増加論ノ賛成者ナリ二者ノ其説ヲ異ニスル  
實ニ如此サテ吾人カ古今經濟學ノ最大進歩中ニ付テ  
其進歩ノ起因セシ所ヲ歸スルハ千八百九年ヨリ千八  
百十一年ニ至ル迄前後三年間ニ貨幣ノ政ニ付充分ノ



討議ヲ尽クシタルニ是レ因ルモノトス  
當時地金取調委員ノ實際ニ主張セシ所ハ英國銀行ハ  
ニケ年以内ニ其正金拂ノ舉ヲ復行セサルヘカラスト  
云フニアリタリ抑モ此正金拂復行ノ條ハ千八百十一  
年五月六日下院ニ於テ「ホルナー」氏カ動議セシ十六ケ  
條ノ決議中最後ノ條款ヲ成スニ至リタリ然ルニ「バン  
レタル」氏ナル人アリ動議ヲ起シテ以テ右ノ十六ケ  
條ノ中三ケ條ニ付テ反對論ヲ主張セリ是レ實ニ有名  
ナルモノニシテ滿堂ノ大笑草トハナリタルモノナリ  
乃チ其文ニ曰ク英國銀行ノ約束手形ハ從來ニ於テモ  
英國内ノ合法正貨ト同等同價ニテアリキ又今日ニ於  
テモ矢張同等同價ナリト  
是レ此動議ノ如キハ當時英國ノ金貨幣ハ英國銀行ノ

紙幣ニ對シ殆ト貳割ノ打歩ヲ付シテ賣買アリタルノ  
實事ニ相反スルノ論ナリ

「バンレタル」氏ノ動議斯ノ如クナリシヲ以テ地金取  
調委員ハ其論鋒ヲ挫レタリ爰ニ於テカ下院ハ原案ト  
動議トニ付テ起立ヲ命シタルニ原案同意者七十五名  
動議同意者百五十一名ナリシヲ以テ「バンレタル」氏  
ノ決議ヲ採用スルニ至リタリ又正金拂ヲ速ニ復行ス  
ルトノ「ホルナー」氏ノ決議モ同意者四十五名ニシテ反  
テ政府ノ方ニハ百八十名ノ同意者アリタルヲ以テ政  
府ノ勝トハナリタリ  
「ロールド、キング」氏ハ此年即チ千八百十一年ニ當リ一  
通ノ回文ヲ其配下ノ地借人ニ送りテ以テ其借地料ハ  
正金ヲ以テスルカ否ヲサレハ正金ニ相当スルモノヲ

以テ拂入レアラン<sup>ト</sup>ヲ地借人ニ請求セリ斯ル舉動ニ  
出シテ以テ世皆「ロールド、キング」氏ヲ目シテ不忠ノ太  
シキモノトシ不忠不忠ノ聲天下ニ囂々タリ爰ニ於テ  
カ議院ヨリ一令ヲ發シテ以テ凡ソ英國銀行ノ紙幣ヲ  
以テ金貨「ギニー」ヲ賣買スルニ當リ其金貨ノ表面ニ記  
載アル價格ヨリモ以上ニ賣買スル者ハ之ヲ有罪者ト  
視做スヘキ旨ヲ命セリ是レ此一令ハ所謂「ロールド、ス  
タン、ホーグ」氏ノ發令ト稱スルモノナリ  
抑モ「ロールド、キング」氏カ其配下ノ地借人ニ對シ右ノ  
如キ請求ヲナセシ所以ハ其目的トスル所凡ソ英國内  
ノ借地料ヲ初メトシテ其他百般ノ諸物品ヲ賣買スル  
ニ「金貨相場」ト「紙幣相場」トノ別ヲ設ケシメテ以テ紙幣  
下落ノ一事ニ公衆ノ意ヲ切ニ注カシメ輿論ヲシテ正

金拂ヲ再行スルノ當時ニ欠クヘカヲサル<sup>ト</sup>ニ傾向セ  
レメント欲スルニ出テタルモノナリ

當時「ロールド、キング」氏ハ右ノ如キ評ヲ天下ニ得シ  
ト虽氏曾テ千六百九十六年ノ幣制改革ニ付高論ヲ  
吐露シタル「ローク」氏ノ舉動亦在ルアリ其如何ヲ視  
ルコソ有要ナリ（本書第二百十三「ペイヂ」ヲ參看スヘ  
シ）同氏ハ曾テ千六百九十五年五月其友人「クラーク」  
氏ヘ一書ヲ寄セシ<sup>ト</sup>アリタリ其文ヲ「フオツクス、ホ  
ールン」氏カ著述セシ「ローク」氏ノ一代記三百二十五  
「ペイヂ」ニ載セリ曰ク余察スルニ七月上旬ニ至テハ  
若干ノ貨幣ヲ余ニ弁償スルモノアラン蓋シ恐ラク  
ハ七月ヲ俟スレテ猶ホ早ク弁償スルヤモ或ハ量リ  
難シ其節ニ至テハ余ハ剪断ノ害ニ罹リタル貨幣ヲ

受取ルヲ拒絶シ得ルモノナルヤ否ヤ冀クハ其如  
何ヲ余ニ教示セラレヨ其然ル所以ノモソハ他ナシ  
余ハ右ノ剪断ニ罹リタル貨幣ヲハ英國ノ法貨トシ  
テ受取ラサルヘシ又余ハ何故ニ最前貸付ケタル高  
ノ全額ヲ受取ルアタハスレテ是非其半額スラフ受  
取ラサルヘカラサルカノ理由ヲ明知セサレハナリ  
ト  
地金取調委員等ハ其後即時議院ノ論スル所ニ依リテ  
遂ニ其説ヲ論破セラレタリト虽氏其報告書ノ主義ハ  
英國輿論ノ公証スル所トナリタリサレハニヤ其後十  
ケ年ノ星霜ヲ經取調委員等ノ主唱スル所ニ由リテ以  
テ正金拂再行ノ舉ヲ實地ニ仕遂ルヲ得タリ  
連年ノ戦争モ爰ニ千八百十五年ヲ以テ其局ヲ結ヒタ

リサテ千八百十四年ニハ金貨ノ紙幣ニ對スル平均相  
場ハ金一「オンス」ニ付五封度四「レルリ」ナリシカ千  
八百十五年ニハ其相場四封度拾三「レルリ」六「ペン  
ス」ニ下落セリ而シテ千八百十六年中モ其相場ニ止マ  
レリ

讀者定テ心ニ記スヘシ千八百十六年ハ「ロールドバ  
アール」氏ノ主唱スル所ニ因リテ英國カ金貨單位  
ヲ採用シタル年ナリ而シテ當時銀貨ハ皆以テ補助  
貨幣トセシトテ本書第二百二十五「ペイダ」ヲ參看ス  
ヘシ

千八百十七年ニ至リ猶ホ金貨ノ打歩減落シテ「ツロク」  
氏カ其著述物價「第六十」「ペイダ」ニ當時金貨ト紙幣ト  
相場自動ノ勢ニ依リテ充分同價ニ復シタルト説キ

タル迄ニ至リタリ以テ其打歩減落セシヲ推知スヘキ  
而已

此時ニ當リ英國銀行ノ頭取輩ハ九ノ千八百十六年一  
月一日以前ノ發行ニ係ル尅封度ニ貳封度ノ兩紙幣  
ヲハ其所持入ノ請求ニ應シ随意ニ正金ヲ以テ交換セ  
リ「フランシス」氏カ其著述英國銀行史第三百十六「ペイ  
テ」ニ論スル所ノ如ク當時此交換ノ令ヲ發シタレバ請  
求ノ英國銀行ニ來ルモノ至テ少ク九ノ此等兩種ノ紙  
幣（是レ重ニ貧民社會ノ所有ニ係レリ）交換用ノ為メニ  
拂出シタル正金ノ高ハ尅百萬封度以上ニ出テサリキ  
爰ニ於テカ頭取輩ハ此一部分ノ經驗ノ成績ニ因リ大  
ニ其意ヲ獎勵セラレ以テ同年十月ニ至リ普ク廣告シ  
テ以テ九ノ千八百十七年一月一日以前ノ發行ニ係ル

諸種ノ紙幣ヲハ金貨ヲ以テ交換スヘキコトニ定メタリ  
然ルニ英國銀行ハ一旦斯ル廣告ヲ出シタレバ其後不  
得止斯ノ舉ヲ中途ニ廢スルニ至リタリ其然ル所以ノ  
モノハ他ナシ此廣告ノ世ニ出ルヤ金貨ノ請求頻繁ニ  
シテ忽チニ五百萬封度餘ヲ流出セシムルニ至リタリ  
時爰ニ「ピール」氏ノ報告ニ依リ爰ニ議院ニ於テハ  
二夜ノ内ニ向後正金拂ヲ停止スルノ議案ヲ通過セリ  
サレハ英國銀行ハ恰モ船舶ノ陸地ニ吹寄セラレテ海  
岸ニ觸タルカ如ク一旦危急ノ位置ニ迫リタレトモ猶  
ホ逆流ノ來ルアリテ以テ其船舶ヲ海洋ニ流出セシム  
ルヲ得タルナリ  
抑モ千八百十七年ニ當リ尅封度貳封度兩種ノ紙幣ニ  
限リテ一部分ノ正金拂ヲ再行セシ以來金貨ノ打歩ニ

騰貴ヲ来セシ原因ハ夫レ將タ何クニアル乎  
「フランシス」氏ハ英國銀行ノ所見ヲ採用シテ曰ク大體  
類ノ紙幣ヲ交換スル旨ヲ廣告セシヤ否ヤ忽チ地金商  
陸續トシテ進入シ次テ金貨ヲ取去タルナリト  
夫レ然リ然リト虽氏抑モ斯ノ如ク金貨ヲ取去ルヲ以  
テ地金商ニ利セシムルニ至リタルモノハ何等ノ原因  
カアリテ然ル乎看スヤ當時為換相場ハ不利ナリシニ  
アラスヤ當時為換相場不利ニテアリレナラハ何故ニ  
斯ク迄地金取調委員ハ其説ヲ主張レ堅ク執リテ動サ  
リシ乎  
「ポロフエツソル、ソムナー」氏ハ其著述「ヒストリー、アメ  
リカン、カレンシー」ト題セル書中第二百六拾四五ノ  
両「バイデ」ニ地金取調委員ノ議論ヲ畧陳セリ其文即チ

左ノ如也

抑モ貿易輸出入ノ權衡如何ハ以テ地金ノ運轉ヲ起  
スヨリハ他ニ為換相場ヲ或ハ平價以上或ハ平價以  
下ニ決シテ變動セシメ能ハサルモノナリ  
凡ソ正貨而已ヲ流通セル國ニ於テハ苟モ其地金ノ  
流出スルヲアレハ為メニ諸物價ヲ下落セシメ以テ  
立刻ニ品物ヲ海外ニ輸送スル方却テ地金ヲ回送ス  
ルヨリモ遙ニ利得アラシムルニ至ルモノトス是レ  
自然ノ常勢ナリ而シテ若シ地金ノ輸出ヲ人為ニ連  
續シテ止マサラシムル片ハ（仮令セハ外國戰ノ入費  
ニ供セシカ為メ等ニテ陸續濫出スル片ハ）ソレカ為  
メニ諸物價ニ下落ヲ来シ其逆流ノ来リテ以テ全世  
界トモ其貨幣ハ物品トノ相對スル最前ノ割合ヲ復

スル迄ハ下落シテ止サルヘシ  
若シ世界萬國皆正金ナリ又ハ紙幣正金併用ナリ其  
邦國相当ノ割合ニ而已應シテ之ヲ通用セシメ毫モ  
過不及ナカラシムルハ凡ソ何レノ邦國ト虽比其  
國ノ正金ヲ悉ク流出シ去シムルヲアタハサルヘシ  
コハ猶ホ潮ノ出入ニ依リテ新約克港灣ノ水ヲ悉ク  
流出シ去シムルヲアタハサルカ如シ又同様ノ例ヲ  
別テ証センニ米國大藏卿タリトモ若クハ米國國會  
ノ委員タリトモ其貨幣ヲ制禦セントスルノ虚妄ナ  
ルハ猶ホ此等大藏卿若クハ米國國會ノ委員カ潮ノ  
出入毎ニ定量ノ水ヲ得ントヲ新約克港ニ望ムノ虚  
妄ナルト一般ナリト云フ  
夫レ然リ然ルカ故ニ苟モ巨萬ノ金貨流出シテ止マ

ス隨テ為換相場ノ不利ヲ来ス片ハ是レ海外ニ流出  
セル金貨ノ後ニ下等ノ貨幣アルノ証徴ナリト  
又曰ク

抑モ輸出品ノ額ヨリモ輸入品ノ額ノ超過スル今日  
ノ如キハ是レ此超過ノ額丈ケハ斯ノ如ク金貨濫出  
スルヲ以テ詰リ其代ヲ償ハシカ為メニ品物ヲ輸入  
シ来ルヨリ超過スルモノニ外ナラスサレハ輸出額  
ヨリモ輸入額ノ超過スルアルハ是レ金貨ヲ輸出ス  
ルノ原因ニハアラスレテ却テ金貨輸出アルノ因ヲ  
致ス所ノ影響ナル而已

若シ今吾人此流出ノ潮流ヲ一変シテ以テ金貨ノ我  
ニ流入アラントヲ欲スルアヲハ之ヲ為スノ法只一  
途アル而已ソハ他ナシ唯下等ノ貨幣ヲ黜クルノ一

法 = 是レアリ

凡ソ何レノ邦國 = 限ラス其國 = ハ已 = 下落紙幣ヲ  
流通セル國 = テアリナカラ貿易輸出入ノ權衡其國  
= 利アリテ以テ金貨ノ流入アランヲ俟カ如キハ何  
人 = 限ラス其人ハ兵陵ノ山脚 = 立テ未タ攀登ラサ  
ルノ前 = 其山脚ノ山岨 = 変化センヲ俟ツモノト  
一般ナリト(ソムナー氏著ヒストリー、アメリカン、カ  
レンシート題セル書中第二百六十四五ノ兩「ペイ  
ヂ」ヨリ抜出ス)

以上ハ是レ「リカルド」氏平生自論ノ主義ナリ抑モ此「リ  
カルド」氏ノ主義ノ確實公正ナルハ何人ト虽氏決シテ  
異論ヲ唱フハカラサルトハ余輩ノ已ニ開陳セシ所 =  
係ル尤モ其主義中殊ニ激烈ニ失スル点ノ如キハ之ヲ

格段ノ場合 = 適應スル = 当リテハ其時ニ臨ミ或ハ幾  
分カノ加減ヲナスヲ要スルトモアルヘシト雖氏其主  
義ノ全体ニ至リテハ實ニ間然スル所ナキナリ  
近ク一例ヲ引カハ抑モ「プロフェツソル、ソムナー」氏  
ハ下落紙幣ヲ流通セル米ノ合衆國 = 近来金貨ノ流  
入セシヲ如何ニ解説スヘキ乎

以上ノ所論ト符合シ果シテ地金取調委員ハ其説ヲナ  
レテ以テ抑モ千八百十八年 = 至リ金貨ノ打歩ヲ市場  
= 再出セシメタルハ是レ英國銀行紙幣ノ増發ノ因テ  
然ラシムル所トセリ

「ソムナー」氏ハ其著述「ヒストリー、アメリカン、カール  
ン」レ「ト」題セル書中第二百八十五「ペイヂ」ニ曰ク英  
國銀行 = 於テハ其紙幣増發ノ舉ハ毫モ為換相場ヲ

變動セシムルナキトノ主義ヲ主張シテ以テ金貨  
ヲ拂出スノ間ニ依然トシテ其流通紙幣ヲ増發セリ  
ト  
地金取調委員ノ説ハ金貨打歩ノ再出ヲ英國銀行紙幣  
ノ増發ニ歸スル夫レ斯ノ如クナレト虽凡爰ニツ  
ク氏ハ其説ヲ駁撃シテ以テ抑モ千八百十七年ノ上半  
季間ニアリテ英國銀行紙幣ノ價格回復ノ色ヲ呈セリ  
然ルニ同年ノ如キハ其前數年ニ比スレハ英國銀行紙  
幣ノ増發スルモノ太タ多カリレサレハ紙幣ノ増發ア  
リレニモ拘ハラス其價格ノ回復ヲ來セリ果シテ然ラ  
ハ地金取調委員ノ説ク所ノ如ク金貨ノ打歩再出セシ  
ハ是レ銀行紙幣ノ増發ノ致ス所ニアラス抑モ事爰ニ  
至リタル所以ノモノハ千八百十七年ノ歳末ヨリシテ

千八百十八年ノ全年中ニ佛魯兩國ノ為メニ巨萬ノ公  
債ヲ英國ニ募集セシノ然ラシムル所トセリ(ツ  
著述物價沿革史ニ詳ラカナリ)  
其原因如何ハ暫ク措キ免ニ角千八百十八年ハ古今  
未曾有ノ危急存亡ヲ商業上ニ來シ隨テ商店ノ破産倒  
滅スルモノ陸續踵ヲ接シ終ニ議院ヲシテ正金拂停止  
ノ主旨ニ其意ヲ注シムルニ至リタリ  
爰ニ於テ上下ノ兩院各々其委員ヲ命シテ以テ別々ニ  
取調ニ役事セシメタリ當時倫敦府ニ於テハ若シ正金  
拂再行ノ舉ニ出タラシニハ其結果ノ太タ恐ルヘキヲ  
察シ痛ク異論ヲ唱ヘタルニモ拘ハラス又英國銀行ノ  
諫言ヲモ聽スシテ下院ノ委員ハ曾テ千八百十年地金  
取調委員ノ報告セシ主義ニ基キタル一議案ヲ報告セ



リ  
フ ランシス<sup>レ</sup>氏ノ言ニ曰ク抑モ此有名ナル議案ニハ元  
ノ事ヲ掲載セシモノナリ即チ英國銀行ニ於テハ二月  
一日ヨリ十月一日ニ至ル迄<sup>レ</sup>「オンス」ニ付四封度<sup>レ</sup>「シ  
ルリング」ツハノ相場ヲ以テ六拾「オンス」ヨリ少カラサ  
ル本位性合ノ金貨ヲ以テ需求次第銀行紙幣ト交換ス  
ルトトナスハシ千八百二十年十月一日ヨリ千八百二  
十一年十月一日ニ至ル迄ハ右同断ノ法方ヲ施行スル  
トトナスハシ然レモ金貨ノ相場ハ「オンス」ニ付三封  
度拾九<sup>レ</sup>「シルリング」六<sup>レ</sup>「ペンスト」定ムハシ  
千八百二十一年五月一日ヨリ千八百二十三年五月一  
日ニ至ル迄ハ「オンス」ニ付三封度拾七<sup>レ</sup>「シルリング」拾  
「ペンスト」半ノ割合ナル金ノ造幣價モ右同断ノ法方ヲ施

行スル間ハ矢張同断ノ割合タルハシ而シテ千八百二  
十三年五月一日ヨリ以降ハ望ノ者アレハ英國ノ金貨  
ヲ以テ紙幣ヲ交換スヘキトスハシ云々  
又千八百二十二年五月一日以後ハ正金拂ノ權ヲ舉ケ  
テ英國銀行ニ委スヘシトセリ扱又右ノ同令ヲ以テ九  
ノ是レ迄金銀貨ノ輸出ヲ禁シ又其溶解ヲモ止メタル  
法モ俱ニ皆廢止セラレタリト英國銀行史ニ詳ラカナ  
リ  
此議案ニ付テ種々ノ討議アリタルヨリ爰ニ千八百十  
七年ノ一舉ノ如ク徒ニ自動ノ再整ヲ俟ツナク又未國  
ノ先例ヲ履行スルヲ俟タスシテ以テ法制ノカニ依リ  
正金拂ヲ再行スルノ至當ナルハ一般ノ輿論トハナリ  
タリ然ルニ此外ニモ猶ホニテ條ノ疑問ヲ引起セリ

其第一問ハ往古ノ本位ヲ回復スルヤ否ヤニ是レアリ  
是レ此疑問ハ千六百九十六年元ニ千七百七十四年  
再鑄造ノ舉アルニ當リ曾テ吾人カ目撃セシ疑問ト同  
一ノモノナリ抑モ此疑問ノ大要ハ爰ニ二十ヶ年ノ久  
シキ正金拂ヲ停止シ殊ニ其年ノ最後ニ至リテハ銀行  
紙幣ノ過度増發ノ為メニ諸物價太タレク騰貴セリ然  
ルニ政府ハ数千百萬封度ノ國債アリ允ソ此等國債ノ  
如キハ素ト軍用ニ供センカ為メニ募集セシモノニシ  
テ而モ其收入ノ貨幣ハ乃テ前書ノ原因ニ依リテ以テ  
其買得カラハ減落セシモノニ係レリ然ルニ亦民間相  
互ニ商業上ニ殖産上ニ起シタル私債ノ如キモ又其高  
積テ巨萬ノ多キニ至リタリ  
夫レ物状斯ノ如キノ當時ニ於テ英國ノ貨幣ヲ其全價

ニ復シテ以テ最前下落貨幣ヲ以テ貸付ケタル債主ヲ  
シテ其貸與高ノ全額ヲハ今全價ニ復シタル貨幣ニテ  
弁償ヲ求メシメ得ハキカ又其債主ヲシテ最前下落貨  
幣ヲ以テ相場ヲ立テ、賣付ケタル物品ノ代料ヲハ今  
全價ニ復シタル貨幣ニテ弁償ヲ求メシメ得ベキカニ  
是レアリ

「イ、ガラチン」氏ハ其著述「コンレデレイションズ」エト  
セイトラト題セル書中第三十七八ノ兩「ペイダ」ニ曰  
ク  
抑モ正金拂ノ一舉ヨリ来ス所ノ最大災害ハ其種類  
多シト雖モ就中正貨ノ通用ヲ復スル時ニ臨ミ其舉  
ニ伴フテ生スル所ノ萬避クベカラザル一大災害ナ  
リ況ンヤ英國銀行ノ正金拂停止ノ舉ノ如ク其星霜

大蔵省

ノ連綿入レキニ涉リレモノニ於テオヤ  
九ノ正金拂停止ノ舉タル者連綿止ムナキノ間ハ其  
損失ハ一々舉ケテ債主ノ頭上ニ落ルモノナリトス  
夫レ然リ然リト虽凡新ニ締結スル約定ノ如キハ其  
時現行ノ貨幣ニ據テ以テ之ヲ舉行スルモノトナス  
ナリ  
事状夫レ然リ然ルカ故ニ若シ正金拂停止ノ舉タル  
者連綿久レキニ涉ル猶ホ英國ノ如クナラシムル片  
ハ九ノ正金拂ヲ復旧再行スルノ日ニ當リテ猶ホ有  
效ニシテ而モ未タ償却濟ニ至ラザルノ貸借約定類  
ハ殆ト皆嚮ニ貨幣ノ下落セシ日ニ於テ取組ミタル  
モノニ係ラザルハナキガ故ニ最前借受ケタル貨幣  
ト其價ノ全ク公平ヲ失スルノ正貨ヲ以テ辨償スル

ノ義務ハ負債主ノ頭上ニ落ルモノナリ然ルニ九ノ  
負債主ナル者ハ社會ノ中ニ就テ平素負擔ニ堪ルノ  
力ニ乏レキモノナレハ其負債主ヲシテ斯ノ如キ辨  
償ノ義務ヲ負擔セシムルハ正金拂停止ノ舉ノ債主  
ニ取リテ有害ナルヨリモ却テ幾層ノ災害ヲ負債主  
ニ及スモノナリト  
第一問ハ已ニ以上ニ陳述スル所ノ如シ其第二問ハ素  
ト是レ第一問ニ繼テ起ルハ理ノ当然ナルモノナリ其  
問題如何ニト云ハ、英國銀行紙幣下落ノ程度ハ如何  
ナルヤニ是レアリ  
此時ニ際シ「リカルド」氏ヲ初メトシテ其他地金取調委  
員ハ堅ク其説ヲ主唱シテ曰ク紙幣ノ下落ハ金貨ノ打  
歩ヲ以テ測量スルニ足レリト當時金貨ノ打歩ハ當ニ

下落シテニ歩トハナリタリ

「リカルド」氏ヨリ「ボサンク」氏ニ寄セシ答解書ニ曰ハ  
紙幣ノ下落ヨリ生ゼシ影響ハ太々明瞭ニ其如何ヲ  
査定シ得タリ乃チ其影響ハ金貨ノ市價ト其造幣價  
トノ差是レナリト

當時金貨ノ打歩或ハ三步トナリ或ハ四歩トナリタル  
其割合ハ千八百十九年ノ正金拂再行令ヲ討問切議ス  
ルニ臨ミ其討論ノ接語ノ如キモノトハナリタリ猶ホ  
夫レ而已ナラス正金拂再行ノ舉ハ其發令後引續キ十  
五ケ年ノ久シキニ行ハレタルニ其令ノ可否得失等ニ  
付テ痛論切議アルニ當リテモ亦以テ右ノ割合ヲ以テ  
其討論ノ接語トハセシナリ

抑モ何レノ邦國ヲ問ハス不換紙幣ノ制ヲ設ル國ニ於

テハ其金貨ノ打歩ヲ以テ紙幣ノ下落ヲ測ルニ足ルカ  
否サルカハ今本編ニ論セスレテ宜シク次編ヲ俟ツテ  
論及スル所アルヘシ依テ今本編ニ於テハ爰ニ金貨ノ  
打歩ハ紙幣ノ下落ヲ測ルトノ一ハ千八百十九年正金  
拂再行令ノ贊成論者ノ定説ナルヲ述グル而已ニテ  
足レリトス抑モ此等ノ贊成論者カ右ノ再行令ヲ舉行  
シ得タルハ恐ラクハ英國銀行紙幣ハ其下落スルト寔  
ニ僅クニ止マルトト確信セシニ因ルナリ而シテ此輩  
カ能ク其令ヲ舉行スルヲ得タルハ是レ寔ニ「ロベルト、  
ピイル」氏ガ剛氣不屈ノ精神ヲ懷テ其舉ニ後事セラレ  
タレハコソ其事ヲ仕遂ケ得タルナリ元來「ロベルト、ピ  
イル」氏ハ地金取調委員長「ホルナー」氏トハ其説ヲ異  
セシ人ナリ而ルニ其後ニ至リ當時ニ主張セシ説トハ

徹頭徹尾相及スル説ヲ立テ、以テ取調委員ト同論ヲ  
唱ヘタリ借又千八百十九年正金拂再行令ノ討議ハ其  
議論ノ廣狹強弱トモニ千八百十一年ノモノニ下ル遥  
ニ遠シ

爰ニ「<sup>1</sup>ビイル」氏ノ令出テ正金拂再行ノ舉アリテヨリ以  
來其令ノ影響スル所カ否ラサルカ免ニ角金貨ノ打  
歩ハ速ニ減落シテ其令求ムル所ニ應スルヨリモ猶ホ  
迅速ナリレサレハ千八百十九年ノ一月ニハ金貨ノ相  
場ハ四封度尙「<sup>2</sup>レルリグ」六「<sup>3</sup>ペン」ナリシガ千八百二  
十年ノ一月ニ至リテハ其相場減落シテ三封度拾九「<sup>4</sup>レ  
ルリグ」拾七「<sup>5</sup>ペン」ニ及ヒタリ然ルニ千八百二十一  
年二月ニハ其造幣價ハ唯厘ニ三封度拾七「<sup>6</sup>レルリグ」  
拾「<sup>7</sup>ペン」ニ半ニスラ過ギザリシ而已爰ニ於テカ英國銀

行ハ兼テ一定シ置キタル時日ノ来ルヲ俟タス其情願  
ニ依リ議院ノ許可ヲ得テ以テ時方サニ千八百二十一  
年五月一日ヲ以テ正金拂ヲ再行セリ物状爰ニ至リテ  
「<sup>8</sup>ロールド、オバストーン」氏カ所謂貨幣昏暗ハ世ト稱セ  
シモノ終局ヲ結フヲ得タリ

抑モ「<sup>9</sup>ビイル」氏ノ奏令正金拂再行ノ結果如何ハ是レ痛  
論切議ノ一大問題トハナリタリ當時一黨與ノ在ルア  
ツテ以テ抑モ戦乱鎮定以來爰ニ商業ノ災害連綿久シ  
キニ涉リ寸時モ止ムノ時ナクテ以テ深重ノ禍災ヲ殖  
産上ニ波及スルガ如キハ皆是レ此再行令ノ然ラシム  
ル所ニ歸セリ

當時西班牙領米國ニ於テ會々國乱暴起シ國家靜穩  
ラザリレニ依リ為メニ世界ニ供給スル金銀ノ産出高

ヲ減少セシメタレハ衆庶ハ夫レ等ノトヲ花マテ深ク  
恐怖セサリシ然レハ英國銀行ノ紙幣ニ禁止令ヲ施  
シカ如キ曾テ不換紙幣ヲ以テ取結ヒタル負債ヲハ金  
貨ニテ辨償スヘキ義務トセシガ如キハ皆是レ苟モ思  
慮アル者ノ注意ヲ促スヘキ性質ノモノタルヲ免レス  
當時ノ物状已ニ斯ノ如シサレハ千八百十九年初メテ  
再行令ノ出テ、ヨリ以来連年商業上ニ殖産上ニ災難  
不幸ヲ来セシヲ其癸令ノ罪ニ歸スルハ毫モ怪ムニ足  
ラサルナリ

抑モ「リカルド」氏カ英國銀行紙幣ノ下落ハ唯僅ニ三歩  
ニ止リシト公言セシ其理論上ノ結果ハ如何アルニセ  
ヨ免ニ角公議輿論ハ正金拂再行ノ舉タル其結果ヲ諸  
物價ニ波及スル所蓋シ僅々ニ止マルヘシト決セリ

公議輿論ノ傾向スル所以上ニ閑陳スル所ノ如ク夫レ  
然リ然ルカ故ニ一旦正金拂再行ノ舉アリテヨリ至大  
至廣ノ動乱ヲ貿易上ニ来シ隨テ至要諸品ノ價格ヲ痛  
ク下落セシメテ以テ巨大ノ製造事業ナリ農業事業ナ  
リ九ノ此等ノ事業ヲシテ破倒衰滅セシムルノ太シキ  
ニハ至ラザルモ大ニ災害ノ苦域ニ墜レタル抑モ當時  
ノ如キニ於テハ其災害ノ據テ来リシヲ一々千八百十  
九年ノ癸令ニ歸スルハ理ノ当サニ然ラシムル所ナリ  
抑モ千八百十九年ノ癸令ハ其論ノ當ヲ失スルノモノ  
タルハ已ニ之ヲ前文ニ閑陳セリ夫レ「リカルド」氏カ英  
國銀行紙幣ノ下落ヲハ唯僅ニ三歩ニ止マルト論セシ  
カ如キハ是レ「リカルド」氏ノ太ク誤解スル所ニアラ  
シテ何ソヤ

「リカルド」氏ハ其後ニ至リテ曾テ英國銀行紙幣ノ下  
落ノ程度ニ付テ其吐露シタル説ヲハ改メテ以テ其  
説ノ誤謬タルヲ自認セシ「ハ」是レ「九」此下落一件  
ニ関セル諸論者ノ能ク主唱スル所ナリ「サー、ゼイム  
ス、グラハム」氏著穀物并ニ貨幣論第三十九、第四拾  
ニ「弟四十三」ペイヂヲ参看シ又「ウエルリヤム、ワルド」  
氏著千八百四十六年ノ高政論「ドンカン」氏著貨幣論  
第百十六「ペイヂ」ニ引證セシモノヲ参閲シ併セテ又  
「トーマス、アットワード」氏著蘇格蘭銀行論第十四第  
二十ニ并ニ「弟二十四」ペイヂヲモ参看スヘシ  
當時現ニ英國銀行ノ紙幣其下落スル「三四割」ノ多キ  
ニ至リ或ハ猶ホ五割ノ太シキニ至リタルヲモナキニ  
モアラスサレハ當時ノ強迫再行令ハ以テ公私萬般ノ

一定セル負擔ヲハ此割合ニ應シテ膨張セシメタルモ  
ノナリ乃チ二十二年以來ノ戦費ニ供センカ為メニ  
募集セシ巨額ノ國債ノ如キモ亦皆然ラサルハナカリ  
シ也「九」千八百十九年ノ癸令ニ付其得失当否等如何  
ノ討議ニ與リシ諸論者中ニアリテ賢勇ヲ以テ衆ニ拔  
キ「デタル」攻撃論者ハ「サー、ゼイムス、グラハム」氏乃チ  
其人ナリシ其著述穀物并ニ貨幣論ト題セル一書ハ千  
八百二十六年ノ出版ニ係リ書中抑モ千八百十九年ノ  
癸令ニハ其罪ヲ歸スル所多キヲ掲テ遺サス痛ク之ヲ  
駁撃セリサレハ今其書中論スル所ノ大要ヲ左ニ略載  
スヘシ其文ニ曰ク  
九ノ公私ノ負債ニ論ナク抑モ千八百十九年ノ再行  
令ハ其結果如何ト云ハ、詰リ小額ノ負債ニ向テ大

額ヲ辨償スヘキトテ令セシモノニ異ナラス当時ノ  
勢夫レ斯ノ如クナリシヲ以テ凡ソ諸物價ハ皆下落  
シタルニ獨リ金銀ノ貸借ニ於テハ毫モ減スルコトナ  
ク依然トシテ常ニ異ナル所ナカリシカ故ニ農ハ毫  
モ利得ヲ占ムルコトナク地主ハ毫モ借地料ヲ受取ル  
コトナク製造者ハ一人ノ得意先ニモ當リ付クコトナク  
職工ノ如キハ亦一職一業ダモ就クヘキモノナキニ  
至レリ物状夫レ此ノ如キ時ニ於テハ財産ノ衰乱、社  
會組織ノ錯離混動コソ夫レニ繼テ起ラサルヘカラ  
サルハ物ノ常数ナリト云々  
千八百十九年ノ再行令ハ獨リ金主ニ一利ヲ付與セ  
シモノニ過キス而シテ其利益セシ割合如何ト云ハ  
バ其金主ノ曾テ借主ニ貸與シ置タル貨幣ノ下落セ

シ多寡ニ是レ依ルモノトスサレハ其割合ハ大概三  
割五分相當ナリトス  
夫レ金主ノ斯ノ如ク俄ニ隆盛ニ至リタルモノハ地  
主ノ俄ニ破滅スルモノニ由リテ以テ盛衰相半スル  
ニ至リタリサレハ一戸ノ同家族中ニテ代々ノ所有  
トセシ財産ノ如キハ忽チニ其所有主ヲ一變スルニ  
至リタリ斯クテ田舎ノ貴家退クニ隨テ金主ハ進ミ  
出テタリト云々  
農夫製造者両ツナカラ破産倒滅ニ至リ地主ハ災害  
ヲ被ムリ庶民ハ食フヘキノ麵包ナク産ニ就クヘキ  
ノ業務常職ナキヨリ暴起帝ナラサリシ時ニ當リテ  
獨リ一社會而已繁榮ヲ極メテ以テ全勝ヲ當時ニ得  
タリ其一社會トハ他ニアラズ乃チ年俸ヲ仰リ者税



ヲ食ム者ノ如キ乃チ是レナリ夫レ此輩ノ如キハ實ニ當時ノ物状斯ノ如ク困難ノ時ニアリナカラ貨物ノ價格増加セシヲ喜悅シ去テ再ヒ歸ラサルノ富ニ生財ヲ犠牲ニ供スルヲ快トスル而已ナラス猶且ツ懶怠者カ勉強者ニ勝ヲ得タルヲ滿悅シテ止マサリレト

以上縷々陳述スル外ニ猶ホ「サー、ゼイムス、グラ、ハム」氏ハ前百紀ノ終ニ於ケル佛米兩國ノ先例ヲ引證シテ以テ流通ノ實ニ應スルカ為メニ本位ヲ省減スルノ公平至当ナルヲ證徴セリサレハ其引證セシ文ニ曰ク

佛國ノ先例ニ於テハ余輩其公平至當ニシテ而モ報酬スル所アルヲ視又米國ノ先例ニ於テハ余輩其智力ニ富ミ前途ニ望アルヲ知レリ然ルニ英國ノ癸令

ニ至リテハ千七百九十七年并ニ千八百十九年ノ分トモ其癸令ニ付テ米佛ノ此德ヲ視ント欲スルモ苟モ其美跡ダニ得ヘカラス今余輩カ斯ノ如キ說ヲ癸スル所以ノモノハ抑モ故アルナリ現ニ我英國ノ如キハ法令ノカヲ籍リテ以テ紙幣ヲ下落セシメタルニアラズヤ然ルヲ下院ノ決議ヲ以テ下落ノ實アルヲ承知セザリシニアラスヤ(本書第三百五十四「ペイヂ」ニ引用シタル「バンシタル」氏ノ決議ヲ參看スヘシ)叔又現ニ我英國ノ如キハ法ノ勢律ノカニ由リテ以テ我貨幣ノ價ヲ騰貴セシメタルニアラスヤ然ルニ此時ニ當リ我目的如何ヲ世ニ公示スルヲナク又其價格騰貴ノ結果ニ對スルノ用意ヲモナスヲナシテ却テ我意ヲ世上ニ秘シテ以テ其結果ヲ辨別思

大  
裁  
省

慮セサリレニアラスヤト

「サ」セイムス、グラハム氏ヲ初メトシテ九ツ千八百七  
九年ノ再行令ニ反對ヲ唱セタル論者輩ハ皆其令ヲ非  
難スルノ極度ニ入ラサリレニ却テ「ツ」氏ノ如キハ  
口ヲ極ハメテ以テ其令ノ實ニ無用ニ屬セシテ説キ通  
商上理財上ノ數原因ノ相集合スルアリテ以テ所謂再  
行令等ニハ毫モ関スル所ナク正金拂ヲ當時ニ再行ス  
ルノ舉ヲ已ム勿ラシムルニ至ラシメタルモノナリト  
論セリ（千八百二十九年同氏ヨリ「ロ」ールド、グレンビ  
ル氏ニ寄セレ書簡ヲ參者スヘシ）余輩カ已ニ前文ニモ  
論シタルカ如ク此等ノ數原因アレハコソ以テ再行令  
ノ要用ナルヲ一進セシメタルモノナリ  
「ツ」氏ハ其著述物價史第百八九人兩「ペ」イ「ゲ」ニ論シ

テ曰ク

若シ「ビ」イル氏ノ再行議案ヲシテ斯ク無効ノモノタ  
ラシメテ以テ今日斯ク無用ノ辨ヲ設ケテ以テ其再  
行ノ舉ニ是レ帰スル凡百ノ諸弊害ヲ來セシハ實ニ  
其舉ノ罪ニアラサリトセハ左ノ問ヲ起スモ不可  
ナカルヘシ抑モ其再行議案ノ功績ハ何等ノ物ナリ  
シヤ又議案ヲ草セシ發起人等カ其議案ヲ緊要事ト  
ナヒシハ抑モ何等ノ原因理由カアリテ然ルヤノニ  
問是レナリ

其第一問再行議案ノ功績ニ至リテハ元來其再行令  
ヲ布クノ意ニ於テ已ニ目的違ヒナルカ故ニ其功績  
ハ毫モ再行ノ舉ニ關係アラザリシナリ唯僅ニ其功  
績ト云フヘキモノハ左ノ一事アル而已抑モ英國銀

行ニ於テハ其発行紙幣ヲ増減伸縮シテ以テ其発行  
紙幣ノ價格ヲ金貨ノ價格ト平等並價ニ保持スヘ  
ノ權ヲ銀行ニ付與シタル是レナリ  
其第二問議案ヲ草セル發起人等カ其議案ヲ緊要ト  
セシハ抑モ何等ノ原因理由カアリテ然ルヤニ至リ  
テハ其議案ノ未タ發令ニ至ラサルノ前討問切議ノ  
日ニ於テ強迫令ヲ実施履行セザルヘカラサルノ物  
状アリシトテ以テ其再行ノ舉ヲ當時ニ緊要事視セ  
シテ證徴スルニ餘リアリト

抑モ英國銀行紙幣正金拂停止ノ來歴ハ今爰ニ本編ニ  
於テ闡陳スルヨリモ猶ホ後編ヲ俟ツテ探究論弁スル  
方却テ當然ナルトノ思想ヲ生スル者モアラン是レ大ニ  
尤ノ至リナリ何トナレハ抑モ英國銀行ノ紙幣ナルモ

ノハ決シテ政府ノ発行紙幣ニアラサル而已ナラス猶  
且ツ千七百九十七年ヨリ千八百二十一年ニ至ルマテ  
英國銀行紙幣ノ交換ヲ停止シテ當時ニ不換紙幣タラ  
シメシハ素ト是レ交換紙幣ノ衰頹ヨリ斯ル結果ヲ生  
セシト視做スモ不可ナケレハナリ夫レ然リ然リト虽  
氏當時英國銀行紙幣ノ正金拂ヲ停止スルニ當リ其發  
端ヲ闡キシシハ是レ英國政府ノ所為ニ係ル而已ナラス  
猶且ツ英國銀行ヲシテ其正金拂ヲ再行セシムルカ否  
ヤノ問題ハ英政府政界上ノ一問視セラレハ其常ナ  
ルカ故ニ尤モ同銀行ノ頭取ヨリ正金拂再行ノ舉ニ應  
シ得ル而已ナラス猶且ツ之ヲ施行スルトテ好ム由ヲ  
申出シテ一回アリトス英國銀行紙幣正金拂停止ノ  
大事ヲハ本編ニ編入登録セシナリ

其他ノ諸國發行不換紙幣ノ類例

爰ニ數十年餘ノ久レキ正金拂ヲ停止シタルノ後ニ於テ不換紙幣ノ弊害ヲ脫除洗淨レテ以テ世界ノ貨幣ヲ復用再行レタルハ宇内ノ大商業國中ニアリテ獨リ英國ヲ以テ其最後ノ例トナスナリ

佛ノ如キ露ノ如キ澳ノ如キ伊ノ如キ米合衆國ノ如キ皆是レ宇内ノ緊要國ニアラサルハナレト虽モ其屬領諸小國ト俱ニ正金拂停止ノ弊ニ流レレト實ニ數十回ニシテ而モ猶ホ今日ニ至リテモ依然トシテ不換紙幣ヲ其國內ニ流通スルアリ尤モ佛ノ如キ米合衆國ノ如キハ夙ニ正金拂再行ノ約ヲ設ケルガ為メ金貨ノ打歩大ニ相減落セシト虽モ猶不換紙幣ノ弊ヲ免レス

抑モ佛國ニ於テハ第二月革命ノ一擧ヨリ爰ニ千八百

四十八年ヲ以テ其政府ヲシテ正金拂ヲ停止スヘキ權  
ヲ佛國銀行ニ付與スルトトハナリタルナリ當時斯ノ  
如ク一時正金拂停止ノ舉ニ出タリト虽モ其銀行紙幣  
ノ發行ヲ嚴シク制限セルカ故ニヤ其紙幣ノ下落スル  
ト二三歩以上ニ出テサリキ而シテ此強迫通用モ寧ニ  
僅々タル時日ノ間ニスラ過キサリシ而已サレハ「ウオ  
ーロスキー」氏ハ其著銀行事件ト題セル書中第貳百五  
拾八「ペイヂ」ニ曰ク此強迫通用モ唯屋ニ四ヶ月間内外  
スラ續カサリシト

然ルニ千八百七十年ニ至リ日耳曼ト戰鬪ヲ関キレヨ  
リ為メニ佛國銀行ヲシテ其正金拂ヲ停止セシメ延テ  
今日ノ久レキニ至ラシメタリ夫レ然リ然リト虽モ千  
八百七十年以來今日ニ至ル迄其銀行紙幣流通ノ景況

ハ始終萬全良美ノ財政ヲ以テ世ニ誇リタリ夫レ佛國  
銀行ノ紙幣タルヤ仮令不換ト虽モ其紙幣ハ何レノ時  
、虽モ太タレキ超過増發ノ弊ニ出テタルト決シテ之  
レナカリシナリ

サレバニヤ金貨ノ打歩モ決テ百分ノ一半以上ニ登リ  
タルト勿リシ而シテ千八百七十年以來今日ニ至ル迄  
ノ久レキ其間過半ハ其打歩ハ千ニ付五歩四歩乃至其  
以下ニ止マレリ故人「バダホット」氏千八百七十四年第  
十一月ノ言ニ曰ク當時佛軍ノ敗ヲ日耳曼軍ニ取リタ  
ルハ却テ佛國銀行法制ノ能ク效ヲ奏シタルヨリモ猶  
ホ驚クニ足ラスト

抑モ佛國ハ嚮キニ雄辯家者流ノ國政ヲ執ルノ日ニ於  
テハ彼ニ戰鬪等ヲ関キ危急ノ憂患ヲ醸生スルノ國ナ

リレカ今日ニアツテハ其執政家其經濟學士者流ノ誘  
導管理スル所ニ由リテ以テ謹慎アル保守アル榮譽  
ル財政ノ模範ヲ宇内ニ布キタリ  
露國ノ發行紙幣ハ千七百六十八年ヲ以テ其發行ノ濫  
觴トナス乃チ當時土地抵當紙幣ノ一種ヲ發行シ其高  
四千萬「ルーブル」(一「ルーブル」ハ九錢)ノ多キニ登レリ然リ  
而シテ右ノ紙幣ハ土耳其ト戰鬪ヲ関クノ初メニ當リ  
直チニ交換スルノ約ヲ設ケテ政府之ヲ通用セシメタ  
ルモノナリ「ツーク」氏ハ其著述物價史第六十七「バイゲ」  
ニ曰ク此紙幣ノ發行ニ関セル布告文中ニハ抑モ其紙  
幣持參人ニ拂フモノハ銀貨ヲ以テ「ルーカ」若クハ銅貨  
ヲ以テスヘキカラ定メスレテ其間ニ疑ヲ存セリ又曰  
ク「ストルチ」氏ノ説ク所ニ依レハ同氏カ千八百十五年

ニ一書ヲ著述セシ頃ニモ猶ホ未メ其説區々ニ別レリ  
ト猶又「ツーク」氏ノ言ニ曰ク露國「アジオ」紙幣ノ如キハ  
當時其紙幣ニ對スル銀貨ノ打歩僅ニ一步ヨリ三步マ  
デニ昇降セリ然ルニ同種類ノ紙幣ニテモ其紙幣ニ對  
スル銅貨ノ打歩ハ唯僅ニ一步半ノモノモアリタリト  
然ルニ露國ハ千七百八十七年ニ至リ向後最早決レテ  
増發ノ擧ニ出テサルヘキノ約ヲ設ケテ以テ俄ニ六十  
萬「ルーブル」ノ増發ヲ為セリ斯ノ如キ約ヲ設ケタレハ  
爾來瑞典ナリ土耳其ナリ波蘭ナリ伯尔西亞ナリ佛國  
ナリ九ノ以上ノ諸國ト間断ナク戰鬪ヲ関キ軍費不貲  
ノ日ナリシヲ以テ陸續紙幣ヲ増發シテ止マズ終ニ千  
八百十年ニ至リ未償ノ紙幣合セテ五億七千七百萬  
「ルーブル」ノ巨額ニ達スルノ太シキニ至レリサレハ銀貨

ノ打歩ハ騰貴シテ四百ニ登レリ

「ブーク」氏ハ其著述物價史第百四拾「ペイヂ」ニ曰ク露國紙幣ノ價格ハ千八百「二年佛軍ノ同地ニ侵入スルニ隨テ俱ニ騰貴ノ色ヲ呈レ」ル「ブル」ノ為換相場ハ數ヶ月以前迄ハ拾四「ペンス」ナリシカ佛軍ノ露都「モスコ」ニ届キレ時ニハ其相場騰貴シテ貳拾四「ペンス」ニ至リタルハ寔ニ奇怪ノ事ナリト  
「ブーク」氏ハ抑モ斯ノ如キ奇々怪々ノ顯像ヲ當時ニ呈セシハ是レ露國物産輸出ノ路ヲハ佛軍ノ為メニ遮断セラルベシトノ懼レヨリ殆ト相場ノ如何ヲ問ハスレテ前拂ニテ巨額ノ買入ヲナスノ勢ニ至リタルノ然ラシマル所ニ帰セリ

露國ニ於テハ其紙幣ノ下落止マテリシ間ハ海関稅ヲ

ハ紙幣ニテ受取りタリ尤モ銀貨ノ相場ヲハ法律上ノ定ニ從ヒ當時ノ打歩ノ多少ニ依リテ以テ之ヲ紙幣相場ニ引直シタル上ニテ紙幣ヲ以テ取ル「ト」セリ爾來千八百三十九年ニ至リ露帝ハ一篇ノ勅令ヲ全國ニ布テ以テ正金拂ヲ舉行スルノ旨ヲ命シ流通ノ「ブル」紙幣ヲハ銀貨一「ブル」ニ付紙幣三「ブル」半ノ割合ヲ以テ需求次第ニ銀貨ヲ以テ拂渡スヘキ「ト」定メタリ

當時露國ニ於テハ一戰鎮定スレハ一戰亦隨テ起リ唯蠶食ノ企テ是レ事トセシカ故ニ爾來更ニ益々財政ノ窘迫ヲ國家ニ來セリサルカ故ニ目下ノ戰鬪ノ初マリシ項ニハ露京「セント、ペートルスホルグ」ニ於テ金貨ノ打歩ハ壹割貳分ヨリ六分マデノ相場ナリレ「セイド」氏

ハ其著述地金元ニ外國為換論ト題セル書中第五拾二  
三ノ兩「ペイヂ」ニ露國紙幣ノ事ニ関シ左ノ緊要ナル論  
ヲ開陳シ置ケリ乃チ其文ニ曰ク

露西亜帝國內ニ流通セル「ルーブル」紙幣ハ其発行高  
ハ現実合セテ幾萬ナルヤヲ露政府スラ明知セスト  
云フサルカ故ニ露政府ハ其発行紙幣ニ関スル責任  
ヲ統御總轄スルノ權ヲ已ニ失セリト猶ホ夫レ而已  
ナラス陸續質造紙幣ノ通用セルモノ實ニ巨額ナリ  
ト虽モ若シ一々之ヲ制シタラバソガ為メ却テ一層  
信憑ヲ害センコトヲ恐レテ以テ政府ハ之ヲ制スルノ  
舉ヲ躊躇セリト若シ此言ヲシテ果シテ実ナラシメ  
ハ余輩カ露國紙幣ノ唯ニ今一層下落スルヨリモ猶  
ホ慘然タル事狀ヲ来スヲ見聞スルノ日ハ近キニア

ルヘシト

紙幣ハ亦以テ澳國ノ久シク其困難トナス所ノモノタ  
リ澳國発行紙幣ノ起源スル所斯ノ如ク夫レ久シキニ  
アリト虽モ其目下ノ不換紙幣ハ實ニ千八百四十八年  
ヲ以テ其濫觴トナス是レ同年革命ノ舉アルニ由リテ  
発行ニ至リタルモノナリ

目下現ニ存スル所ノ政府発行ノ紙幣ハ其高九ノ壹億  
五千萬「ドルタル」ニシテ澳國洪割利ノ西部ニ一様ニ流  
通スルモノトス

頃ハ千八百六十一年洪割利國トノ混乱動搖アルニ  
際シ爰ニ一條ノ訴訟ヲ英國法廷ニ持出セリ(是レ實  
ニ原告澳帝ヨリ被告「コサツス」ハ係ル訴訟ニ係ル)抑  
モ此訴訟ハ被告ヲシテ紙幣貳拾三噸ノ量額ヲバ焼



棄ノ為メニ原告ニ引渡スヘキヲヲ請求セシモノナ  
リ而シテ右ノ紙幣ハ其價格合セテ壹億「フロリン」以  
上ニシテ素ト被告「ヨサツス」ノ命スル所ニ依リテ彫  
刻シ洪割利國ニ通用シテ其紙幣トセシモノナリ英  
國法廷ハ此訴訟ヲ受理シ其判決ヲ下シ「抑モ  
英國法廷ハ奧國洪割利帝國ノ革命ヲ防クカ為メニ  
其事ニ干涉シ得サル旨ヲ以テシ又原告奧國帝カ洪  
割利國君タルノ政權ニ如何ナル敵色ヲ呈スレハト  
テモ夫レニ干涉シ得サル旨ヲ以テセリ然レモ又其  
決ヲ下シテ曰ク兎ニ角右ノ紙幣ヲ洪割利國ニ通用  
セシメタルハ乃チ其國君タル原告ノ財產ヲ初メ其  
臣民ノ財產ハ損害ヲ及ホセシモノナルカ故ニ右ノ  
紙幣ヲハ悉ク之ヲ寸断シテ紙屑トナシテ以テ被告

ハ返付スヘキヲヲ命セリ

扱又澳國金貨ノ打歩ハ其變動スルノ頗フル太メシカ  
リレ而シテ其變動ハ政治ノ動靜如何ニ是レ由ルモノ  
太々多キニ居レリ

「ヤツキス、ウエルス」氏ハ其著述千八百七十六年五六兩  
月ノ萬國誓蹟ト題セル書中ニ曰ク澳國ハ是レ迄千八  
百五十九年ト千八百六十六年トニ於テ已ニ兩度迄紙  
幣ヲ止メテ以テ正貨ニ復セシ「一」ニ尽力セリ然ルニ兩  
度共ニ國家戦闘ノ舉アリテ以テ後事ニ属セリト

現ニ千八百六十六年ノ如キハ幸國ト一大戦争ヲ開キ  
危急存亡ノ秋ニ迫リシヲ以テ國家殆ト前途ニ望ナキ  
ノ苦域ニ陥リタリ

千八百六十六年五月ニ於テハ現ニ澳國流通紙幣ノ高

ハ五千四百萬「ドル」ナリシ然ルニ同年ノ歳末ニ至  
リテハ其高増シテ壹億「ドル」ノ多キニ登レリ其増  
發猶ホ是レニ止マラス千八百七十三年五月ニハ最高  
点ニ達シ發行高合シテ壹億七千萬「ドル」ノ巨額ニ  
至リタリ  
扱又伊太利國ニ於テモ其紙幣ノ強迫通用ヲ初メタル  
ハ澳國等ヨリモ猶ホ輓近ノ事ニ係レリ夫レ然リ然リ  
ト虽モ其發行高ハ速ニ増加シ夫レニ應シテ其下落モ  
亦速ニシテ壹割貳分ヨリ貳割ノ下落ヲ來セリ  
「セイド」氏ノ言ニ曰ク西班牙國ノ如キハ其物事ノ景状  
頗フル不穩ニシテ其國發行紙幣ト正貨トノ兩者相関  
スル價格ヲハ最早今日ニアツテハ毫モ明亮ニ一定シ  
能ハサル程ノ太シキニ至レリト

亦土爾基國ノ如キハ實分ノ磨滅自損セシ正貨種々無  
量ナルカ上ニ所謂「エムペリアル、オットマン、バンク」(土  
耳基帝國銀行)ヨリ發行セシ銀行紙幣アリ其銀行紙幣  
ハ實際不換紙幣ニシテ不定ノ割引ヲ以テ現ニ流通ス  
ルモノナリ

中央亞米利加並ニ南亞米利加諸州ノ過半モ亦皆流通  
紙幣ノ在ルアリ其紙幣ハ割引ノ太シキ「四百」ニ付三  
百九拾九分以上ノ多キニ至リタリ

南亞米利加「アルゼンタエ」共和國ノ紙幣ハ其最近  
ノ相場實ニ九割六分ノ割引ニ至リタルヲ余ハ目撃  
セリ

「ペイナ」共和國ノ如キモ近頃三億「ピアスタ」(壹「ピアス  
タ」ハ我一圓餘ニ當ル)ノ紙幣ヲ發行セリ爰ニ於テカ

政府令ヲ下シテ以テ紙幣ト正貨トノ交換相場ヲハ  
正貨壹「ピアスタ」ニ付紙幣三百「ピアスタ」ノ相場ト取  
定メタリ

「サン、ドミンゴ」ノ発行紙幣ハ千八百七十一年同國ハ  
汎遣ノ合衆國事務官ノ復命スル所ニ據レハ其最後  
ニ發行セシ紙幣ハ壹割ヨリ貳割マデノ割引ニ至レ  
リ其所謂「信憑紙幣」(乃チ早ク發行シタル紙幣ナリ)ノ  
交換相場ハ政府ヨリ令ヲ下シテ以テ銀貨壹「ドルラ  
ル」ニ付紙幣三拾「ドルラル」ノ交換相場ニテ其紙幣ヲ  
政府ニ受取タリ乃チ九割六分ト三分ノ二ノ割引相  
場ナリ又其所謂「大藏省紙幣」(右ノ信憑紙幣ヨリモ猶  
ホ一層早ク發行セシ紙幣ナリ)ハ銀貨壹「ドルラル」ニ  
付紙幣四百「ドルラル」ノ交換相場ヲ以テ之ヲ政府ニ

受取タリ乃チ九割九分ト四分ノ三ノ割引ナリ

目下流通ノ合衆國紙幣ハ實ニ千八百六十二年ヲ以テ  
切メテ救助ノ一策トシテ壹億五千萬「ドルラル」ノ高ヲ  
發行セシモノニ係ル然ルニ當時右ノ如ク紙幣ノ發行  
ニ出ルカ若クハ政府ノ公債證書ヲ其并價以下ニ販賣  
シテ其代價ヲハ金貨ニテ申受ケンカニ者孰レヲ選ム  
カト議論兩岐ニ分レリ勿論ニ者孰レヲ選ムモ政府ノ  
権内ニ是レアリタリ

同年二月十九日ノ演説ヲ以テ議案ノ主任者ハ抑モ  
其議案ノ大主眼トスル所ハ政府ガ其公債證書ヲ市  
場ニ公賣レテ以テ其代價ハ正貨ヲ以テ申受ケン  
スルノ強迫主義ヲ防カントスルニ是レアル旨ヲ公  
言セリ

二者就<sup>統</sup>レラ取ルハ政府ノ権内ニアル夫レ斯ノ如クナリ  
レニ爰ニ下院歳出入取調委員ハ「イ、ヂ、スポールジング」氏  
ヲ舉ケテ其代言人トナシテ以テ政府ガ如何ナル方法ヲ  
設ケテ「ウォール」街若クハ「ステイト」街ノ豪商銀行等ニ就  
テ金策ヲ求メントスルモ須ラク其舉ニ異論ヲ唱ヘ又政  
府ノ公債證書ヲ壹「ドル」ラルニ付七拾五「セント」若クハ六  
拾「セント」ノ相場ニテ競賣セントスルノ舉ニ反對論ヲ主  
張シ到底銀行者ナリ仲買人ナリ其他ノ商買ヲシテ政府  
ノ公債證書ヲ以テ投機商賣ヲ為シタルノ方法ニハ其  
如何ニ拘ハラズ断乎トシテ之レニ不同意ヲ唱ヘタリ  
是レ頃ハ千八百六十二年第一月米國大藏卿、下院歳出  
入取調委員並ニ米國ノ重立タル都府ノ銀行委員ト面  
晤ノ際「イ、ヂ、スポールジング」氏ノ反對論ニ付テ新約克

「トリビユー」ニ新聞紙上ニ登録セシ語ヲ寫出セシモノ  
ニ係ル「スポールジング」氏ハ千八百六十二年ノ合法貨  
幣條例ニ付テ其來歴沿革ヲ記スルニ當リテ毫モ修飾  
増減スルコトナク右ノ反對論ヲ寫出シ置キタルカ故ニ  
其來歴コソ取テ以テ同氏ノ所見如何ヲ觀察明知スル  
ニ足レリ

抑モ斯ル反對論ハ實ニ愚ノ極ナルカ故ニ當時ノ來歴ヲ  
ハ正史ノ外ニ投擲セシメ「スポールジング」氏ノ談ヲハ滑  
稽史中ニ編入セシムルモノト言フヘシ凡ソ何人ニ限ラ  
ズ苟モ三千萬人ノ立法官ニ代リテ事ヲ議スルノ人ニテ  
アリナカラ公債證書ノ投機賣買ヲ防ンコトヲ思考シ國家  
存亡ノ戦闘中ニアル政府ヲシテ六銖利付ノ公債證書ヲ  
並價以下ニ販賣シテ以テ其代料ヲハ金貨ニテ受取ラレ

ハルヨリモ却テ紙幣ヲ強迫通用スルノ可ナルヲ公言  
シ猶ホ判サヘ合法貨幣條例ヲ發行シテ以テ爰ニ政府ノ  
權威ヲ保護スルヲ等ヲ辨シ得ルアラハ抑モ如何ノ結果  
ヲ期シテ俟ツヘキカ只期スヘキハ財政上ニ愚ヲ極ムル  
ニアル而已

「スポールジング」氏ハ一月二十八日ヲ以テ一篇ノ演説  
ヲナセリ其文ニ曰ク

余輩ハ貨幣ノ權力如何ヲ明知スル而已ナラス猶且ツ  
衆人ノ中ニハ貨幣ヲ使用シテ莫大ノ利益ヲ得ント欲  
スルノ念アルヲモ知ルカ故ニ今ノ時ニ於テ我米國政  
府ガ其無量ノ權力利源ヲ持テナガラ仮令モ其人ハ尊  
重スヘク其人ハ愛國ノ士ナルニモセヨ銀行者若クハ  
金貸等ノ如キ社會ニ事ヲ依頼スルヲ余ハ好マス請フ

看ヨ我米國政府ノ現状ヲ抑モ我米國政府ハ其勢力ノ  
強キ丈ノ銀行者若クハ金貸社會ノ如キ者ノ比ニアラ  
ス又政府ノ資力ノ大ナル此等社會ノ比ニアラス凡ソ  
銀行者ノ所有貨幣ナリ仲買人ノ所有貨幣ナリ其管下  
人民三千萬口ノ所有財産ナリ凡ソ以上ノ物ハ一トレ  
テ政府ノ權内ニアラサルハナシ夫レ然リ然ラハ抑モ  
何等ノ理由アリテ我政府ハ豪商貴家ノ輻輳セル「ウオ  
ール」街「ステイト」街「チエスナット」街其他ノ街ニ依頼シ  
テ以テ金策ヲ求メンヲ是レ請フ乎ト云々  
又曰ク

以上説ク所ノ如クナルニ依リ余輩ハ今政府カ此等諸  
街ノ銀行豪商等ニ依頼シテ金策ヲ求メントスルヨリ  
モ寧ロ爰ニ政府ノ權威ヲ確守固定シテ以テ政府ノ紙

幣ヲ發行スルヲ是レ可トスレナリト  
以上「スポールディング」ノ立言ハ帝ニ國會ノ之ヲ譴責セサ  
ル而已ナラス(當時國會ニ於テハ此國家危急存亡ニ際シ  
一大戦闘ヲ開ケンカ為メニ其軍費出入ノ方法如何ヲ選  
ムニ及マタリシ)猶且ツ其言論ハ國會ノ中ニテ重立タル  
議員ノ之ヲ可トスル者過半数ニ居レリ夫レ此等ノ重立  
タル者ハ皆緊要ナル取調委員ノ長ニレテ九ノ英佛獨等  
ノ諸國ニ於テハ公權ナリ國法ナリ財政ナリ其奧妙ニ通  
曉熟達セル人々ノ占ムヘキ位置ニ居リシ士ナリ  
爰ニ下院歳出入取調委員ヨリ合法貨幣條例ヲ議場ニ招  
介シ衆議ニ付シタルニ其討問切議ノ際金銀伸買人、小資  
本ノ財主、両替屋其他類似營業ノ諸商ヲ輕蔑誹謗スルノ  
言語至レリ尽セリ議員「オノレイブル、ゼイ、ス、モリル」氏ノ

演說中ニモ此軍費ヲ未タ「ドルラレ」ダモ賦課セサル國  
民ノ勢力ヲ論シ談右ノ輕蔑誹謗ニ涉レリ物状夫レ斯ノ  
如クナリシニ依リ米合衆國ノ國會ハ其發行ノ六銖利付  
公債証書ヲハ並價以下ニ賣却スルヨリモ寧ロ強迫紙幣  
ヲ流通セシムルノ舉ヲ可トセリ仮令ヒ當時ニ於テハ米  
國諸都府商業上ノ利子ハ通例六銖以上ニ出シトハ虽モ  
猶ホ此公債証書ヲ發行賣却スルヲ不可トセシナリ

「スポールディング」氏ノ言ニ曰ク當時ノ紙幣ハ二分ノ割  
引ヲ以テスルニアラサレハ之ヲ大藏省ヨリ拂出シ能  
ハサリシト是レヲ以テ其紙幣、強迫通用タルヲ証ス  
ルニ足レリ然ルニ同氏ハ亦曰ク六銖利付ノ公債証書  
ヲ以テ並價ニテ貨幣ヲ得ルアラハ頗フル巨額ノ合法  
紙幣ヲ發行スルヨリモ寧ロ其公債証書ヲ發行スルノ

舉ニ出ルヲ可トスハシ

抑モ公債証書ノ發行ヲ不可トシテ以テ紙幣ヲ發行セシ  
此一舉ハ幾許ノ損失ヲ来セシカ數千百萬ノ巨數ヲ以テ  
スルニアラサレハ之ヲ算スルニ途ナカルヘシ又此一舉  
ヲ以テ公私ノ榮譽上ニ来セシ損害ハ抑モ亦幾許ノ多キ  
ソヤ

夫レ斯ノ如ク不換紙幣ヲ發行スルノ舉ニ依頼スルニ於  
テ米國國會ノ其發行ヲ萬已ヲ得サルニ出タルノ遁辭ト  
ナスヘキモノハ千八百六十二年ノ國會ニ取リ一トシテ  
是レアラサルナリ抑モ往昔ノ米國國會ハ毫モ強迫壓制  
ノ威カヲ有スレナク苟モ收税ノ權ナク又米國ノ諸港ハ  
入津シ来ル外國品ヘスラモ税ヲ賦課スルノ權ナカリシ  
ナリサルガ故ニ國資ヲ得ルハ唯々米國諸州ノ寄付セル

所ニ是レ由ルノ一途アリタル而已尤モ此等ノ諸州ト虽  
モ其國會ノ要求セル所ニ應スルモ否ラサルモ獨リ其州  
ノ自由ニアリタリ猶ホ夫レ而已ナラス往昔ニアツテハ  
殆ト各州ノ人民皆其曾テ殖民時代ニ發行セシ紙幣ノ結  
果ニ欺カレ税ヲ賦課セラル、ノ一ヲ是レ畏縮シテ反令  
ヒ後日ニ災ヲ来スノ恐レアルモ一時ノ便策ヲ執ルニ及  
タトシテ以テ紙幣ヲ發行スルノ舉ニ依頼シタル者ナリ  
然ルニ千八百六十二年ノ國會ハ大ニ昔日ノ國會ニ反シ  
充分ノ権力ヲ得タルモノナリサレハ其國會ハ人民ノ商  
業職業等へ直接ニ税ヲ賦課シ得タル而已ナラス猶且ツ  
九ノ輸出用ノ内國品ヲ除クノ外ハ各種ノ物産ヘモ税ヲ  
賦課シ得タルモノナリ又合衆國ノ人民ハ軍資ニ應スル  
ヲ好マサルニアラス其人民ハ現ニ軍資ノ負擔ニ堪ユル

歳省

ノ用意ヲナシ能ク之ニ應セリ而モ其之ニ應スルハ堪忍  
ノ深キニ出テタル而已ニアラス快ク之ニ應シタルモノ  
ナリ猶且ツ戦闘中ニ於テモ亦鎮定後数年間ニ於テモ其  
人民ハ尚ホ近代マテモ行ハレタル如キ拙劣ノ収税法ヲ  
ハ毫モ哀訴スルコトナク甘受シタルモノナリ當時ノ物状  
夫レ斯ノ如クナリシニ依リ國會ノ重立タル議員ノ外ハ  
此合法貨幣條例ヲ発行スル如キノ誤法ニ出ルモノハ一  
人モ勿リシナリ

尤モ國會ノ重立タル議員皆此合法貨幣條例ヲ発行スル  
ノ誤法ニ出テタルニハアラス「バルモン」州ノ如キハ其  
土地寔ニ一小州ニ過スト虽モ爰ニ下院議員「モリル」氏現  
今ハ上院議員ニ轉任ス並ニ上院議員「コラセー」氏ノ兩  
議員ヲ舉ケテ其州ノ代議士トナシ以テ痛ク右ノ合法貨

幣條例ノ發行ニ異議ヲ唱ヒ抗論ヲ主張セリ當時ノ理財  
学士「オーウエ」ン、「ローグデヨイ」氏著理財略說中載セテ尤  
ノ教言アリ其言ノ如キ一字一語トシテ足ラサルヲ補フ  
所ナク又一字一語トシテ餘リアルヲ削除スル所ナク實  
ニ間然スヘカラサルノ金言ナリサレハ其文ニ曰ク

蓋シ余輩ヲシテ其舉ニ從事セシメハ余輩ハ合衆國ノ  
有利公債証書ヲ發行シ之ヲ市場ニ投シ申込人ニ賣渡  
シテ金ヲ借受テ我米政府ノ負債ヲ弁償スルノ用途ニ  
供ス可シ余輩熟々惟フニ是レ此舉ハ蓋シ公平正直ニ  
シテ而モ商業ニ類似シ判ハ其目的ニ於テモ經濟主義  
タルヘシト

下院議員「ホルトン」氏並ニ同議員「ロスコー」、「コンクリング」  
氏ノ西士其他上院議員「ブエツ」センデン氏並ニ同議員「ソ



ムナリ氏ノ両士等九ノ以上四名ノ議員諸君モ亦財政主  
義ニ付テ高論明説ヲ吐露シ盡セリ

然ルニ合法貨幣條例議案ハ千八百六十二年第二月廿五  
日ヲ以テ一定ノ法律トナリ天下ニ普ク布告セラレハニ  
至レリ是ニ於テカ恰モ曾テ佛國ノ履ミタル例ノ如ク真  
ニ衆庶ノ抗論異説百出シ討問切議ノ太レキハ最初第一  
回ノ紙幣発行ノ舉式ケニ止マリテ其後ニ至リテハ左マ  
テ異議ヲ唱フル者モ勿リシ是レ米國ニ於テモ亦佛國ト  
同一轍ニ出テタリ

下院取調委員長當時ノ説ニ依レハ合法貨幣條例ニ由リ  
定メタル発行額壹億五千萬「ドルラ」ハ最大ノ巨額ニシ  
テ此上ニ超越スヘカラサルヲ唱タレ凡夫ヨリ聞モナ  
ク早ヤ七月十一日ヲ以テ國會ハ令ヲ下シテ以テ更ニ又

壹億五千萬「ドルラ」ヲ増發セシメ猶亦千八百六十三年  
三月三日ヲ以テ同レク壹億五千萬「ドルラ」ノ紙幣ヲ増  
發セシメタリ

右ノ合法貨幣條例發布ノ前ニ發行シタル需求拂紙幣  
大九ノ六十萬「ドルラ」程ヲハ兼テ二月廿五日發布ノ  
合法貨幣條例ヲ以テ發行許可ニ至リタル紙幣ト同レ  
ク千八百六十二年三月十七日ヲ以テ之ヲ合法貨幣ト  
定メタリ

頃ハ千八百六十四年ノ夏ニ至リ金貨ノ打歩ハ紙幣過度  
増發ノ為メニ頻ニ騰貴シテ其太レキ拾五割迄ニ上リメ  
リ爰ニ於テカ國會ハ六月三十日ヲ以テ令ヲ天下ニ布キ  
允ノ合衆國ノ紙幣發行總高ハ何レノ時ニ於テモ決シテ  
四億「ドルラ」以上ニ出サルヘキ旨ヲ布告セリ

蓋シ「プロフェツソル、ソムナー」氏ハ四億ドルヲ以テ我紙幣發行ノ制限トナスニ似タリサレハ、コソ其著米國貨幣史第二十四「バイヂ」ニ論シテ曰ク米國ノ紙幣ハ過多ハ乃ケ過多ナリト、虽モ其高ハ自ツカテ一定不動ナリト、又曰ク是レ此頭像ハ余カ凡ソ紙幣ノ史上ニ於テ是迄ニ聞見セシ所ニテハ、實ニ古今未曾有ノ奇事ナリト

因是觀之余輩豫察スルニ蓋シ「プロフェツソル、ソムナー」氏ハ我現況ヲ視テ以テ亦奇怪トナス所アルベシソハ他ナレ目下ノ制ハ法ヲ布キ令ヲ設ケテ以テ紙幣ノ發行高ニ制限ヲ立タルヲハ奇怪トセスシテ却テ斯ノ如ク法ノ勢令ノ力ニ因リテ立タル制限ノ永ク変更スルヲナク維持セラレハ、ノ實アルヲ奇怪ト呼フヘケレ

ハナリ

右ノ紙幣發行總高四億ドルヲ外ニ猶ホ臨時債等ノ銷還ニ充ニカ為メ一時要用ノ場合アルニ於テモ其臨時發行ノ高ハ五千萬ドルヲ以上ニ出ザルヘキ旨ヲ天下ニ布告セリ

當時ノ物状寔ニ斯ノ如クナリシニ爰ニ亦國立銀行ノ制ヲ創定スル所トナリ徐々其制ヲ実施スルノ運ヒニ達シ政府ノ合法紙幣ヲ以テ交換スヘキ銀行紙幣ヲ發行スルニ至リタリ是ヲ以テ幾層ノ銀行紙幣ヲ増加スルトトハナリタリ屯ノ表ニハ當時強迫通用ヲ試ミタル最初ノ五ケ年間ニ金貨打歩ノ昇降如何ナリレヲ登記ス就テ參看アル可シ

歳



千八百六十二年一月ヨリ千八百六十六年十二月迄毎月金貨

打歩最高下表

	千八百六十二年		千八百六十三年		千八百六十四年		千八百六十五年		千八百六十六年	
	最下点	最高点	最下点	最高点	最下点	最高点	最下点	最高点	最下点	最高点
一月	0	50	34	62 $\frac{3}{4}$	51 $\frac{1}{2}$	62	97 $\frac{1}{2}$	134 $\frac{1}{2}$	36 $\frac{3}{4}$	44 $\frac{5}{8}$
二月	2 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{3}{4}$	53	72 $\frac{1}{2}$	57 $\frac{1}{8}$	61	96 $\frac{3}{8}$	116 $\frac{3}{4}$	35 $\frac{7}{8}$	41 $\frac{1}{4}$
三月	1 $\frac{1}{8}$	2 $\frac{1}{2}$	39	71 $\frac{3}{4}$	59	69 $\frac{3}{4}$	48 $\frac{1}{8}$	101	25	36 $\frac{1}{2}$
四月	1 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{4}$	46	59	66 $\frac{1}{4}$	87	44	60	25	29 $\frac{1}{2}$
五月	2 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	43 $\frac{1}{2}$	55	68	90	28 $\frac{5}{8}$	45 $\frac{1}{4}$	25 $\frac{1}{2}$	41 $\frac{1}{2}$
六月	3 $\frac{1}{2}$	9 $\frac{1}{2}$	40 $\frac{1}{2}$	48 $\frac{7}{8}$	89	151	35 $\frac{3}{4}$	47 $\frac{5}{8}$	37 $\frac{5}{8}$	67 $\frac{3}{4}$
七月	9	20 $\frac{1}{8}$	23 $\frac{1}{4}$	45	122	125	38	46 $\frac{1}{2}$	48 $\frac{1}{4}$	55 $\frac{3}{4}$
八月	12 $\frac{1}{2}$	16 $\frac{1}{4}$	22 $\frac{7}{8}$	29 $\frac{3}{4}$	131	162	40 $\frac{1}{8}$	45 $\frac{5}{8}$	46 $\frac{1}{2}$	52 $\frac{1}{4}$
九月	16 $\frac{1}{2}$	24	27	42 $\frac{1}{4}$	35	155	42 $\frac{5}{8}$	45	44	46 $\frac{3}{4}$
十月	22	37	40 $\frac{3}{8}$	56 $\frac{3}{4}$	89	129	44	49	45 $\frac{5}{8}$	54 $\frac{3}{8}$
十一月	29	33 $\frac{1}{4}$	43	54	109	160	45 $\frac{1}{2}$	48 $\frac{3}{4}$	37 $\frac{1}{2}$	48 $\frac{5}{8}$
十二月	30	34	47	52 $\frac{3}{4}$	111	124	44 $\frac{1}{2}$	46 $\frac{3}{4}$	31 $\frac{1}{4}$	41 $\frac{3}{4}$

年六十六百八十		年五十六百八十		年四十六百	
原島景	原下景	原島景	原下景	原島景	原下景
$\frac{1}{8} 44$	$\frac{1}{4} 88$	$\frac{1}{2} 44$	$\frac{1}{2} 77$		
$\frac{1}{4} 11$	$\frac{1}{8} 22$	$\frac{1}{4} 22$	$\frac{1}{8} 22$		
$\frac{1}{2} 22$		101	$\frac{1}{8} 84$		
$\frac{1}{2} 99$		00	44		
$\frac{1}{2} 14$	$\frac{1}{2} 22$	$\frac{1}{4} 44$	$\frac{1}{8} 88$		
$\frac{2}{4} 77$	$\frac{1}{8} 77$	$\frac{1}{8} 77$	$\frac{1}{4} 22$		
$\frac{1}{4} 22$	$\frac{1}{4} 84$	$\frac{1}{2} 44$	88		
$\frac{1}{4} 22$	$\frac{1}{2} 44$	$\frac{1}{8} 44$	$\frac{1}{8} 44$		
$\frac{1}{4} 44$		44	$\frac{1}{8} 44$		
$\frac{2}{8} 44$	$\frac{1}{8} 44$	44	44		
$\frac{1}{8} 84$	$\frac{1}{2} 77$	$\frac{1}{4} 84$	$\frac{1}{2} 44$		
$\frac{1}{4} 14$	$\frac{1}{4} 18$	$\frac{1}{8} 44$	$\frac{1}{2} 44$		

金貨打歩ノ昇降ハ右ニ記スル所ノ如シ千八百六十二年  
 第二月ノ暴令ニ依リ発行シタル不換紙幣ヲハ米國  
 ノ地ヲ拂去シメシカ為ニ爰ニ戰鬪鎮定以後只一回  
 大尽力ヲ為シタル而已即チ當時ノ大藏卿「マツタロー  
 チ」氏ハ未償合法紙幣ヲ減却シテ止マサリシナリ然ル  
 ニ此政府紙幣減却ノ要拳ヲ充分ニ仕遂テ以テ緊要ノ  
 結果ヲ見ル迄ノ運ヒニ至ラサリシ前ニ早ヤ割引市場  
 ノ促進帝ナラズ隨テ諸物價俱ニ騰貴ノ勢底止スル所  
 ヲ知ラサルノ太シキニ至リタルヲ以テ米全國ノ杞憂  
 恐怖日一日ヨリ太シカリシニ付終ニ千八百六十八年  
 第一月ニ至リ曾テ千八百六十五年第十二月十八日ヲ  
 以テ布告シタル條例ヲ廢止スルヲハナリタリ右ノ條  
 例ハ則チ政府發行ノ合法紙幣ヲ引上ケシテ九許セ

シモノ是レナリ

抑モ千八百六十五年第十二月十八日ノ條例ハ國會ヨリ發布セシ財政令ナリ夫レ此財政令ヲ布クモ其影響スル所ノ全ク之レナキハ當時其發布ニ臨ミ衆議ニ付シタル議案ノ來歴ヲ爰ニ略載セハ一目瞭然タルヘシ抑モ此議案ハ其初メ衆議ニ付セシ時ニハ不同意ヲ唱ヘシ者ハ只僅ニ六名ニ過キスレテ異議ナク議場ヲ通過セリ然ルニ發令以來其必然來スヘキノ結果ヲ生スルヤ否條例ヲ廢止セリ蓋シ何人ニ限ラス先見ノ明ヲナル人ハ斯ル結果ヲ未發ニ豫期セシナル可シ議案ノ來歴九ノ斯ノ如シ果シテ然ラハ允ノ物ノ基礎根本トナルヘキ改畧ニ関セル法令ヲハ其設ルモ其廢止スルモ斯ノ如ク輕々舉行セル

日ニ於テハ混乱錯雜ト災害ノ外何事ヲカ豫期レ得ヘキツヤ

「プロフェツソル、ソムナリ」氏ハ其著「セストリ、オフ、アメリカン、カールン」ト題セル書中第二百十二「ペイ」ニ論シテ曰ク抑モ政府發行ノ合法紙幣ハ幾分カ當時ニ減少セシト虽モ國立銀行紙幣ヲ増加セシニ由リ増減ノ相償ヒシハ實ニ千八百六十五年發布ノ條例廢止ノ日ニアリタリ當時ノ大藏卿「マツクローチ」氏ハ紙幣引上ノ擧ニ從事セシヲ以テ爰ニ政府發行ノ合法紙幣ハ減少シテ三億五千六百萬「ドル」ニ至リタレト及ヒタル  
抑モ正金拂再行ノ方法ヲ閱陳討議スルカ如キハ本書

ノ主旨ニアラサルヲ以テ今爰ニ發セス既往四年間殖  
産地ニ墜テ信憑衰凋シ慘然タル紙幣ハ以テ我米國  
人ヲシテ合衆國紙幣ノ其市價ト合法價トハ高低ナク  
兩者其價ヲ同フスルノ點ニ至ラシメタリサレハ恰モ  
海岸ニ近付キタル浮禽ノ如ク力已ニ尽キタルモ復タ  
潮ノ流ル、ト共ニ海中ニ流去ルヲナキニアラサルハ  
シ故ニ爰ニ一大断行ヲ為サハ以テ我米國ノ信憑ヲ旧  
ニ復シ隨テ殖産ヲハ泰山ノ安キニ置クニ足ル可シ然  
ルヲ若シ事躊躇シ百方詐偽ノ術ニ出ルアラハ既往四  
ケ年ノ困難苦辛ヲシテ一朝水泡ニ帰セシムルノ患ア  
ラン夫レ正金拂ノ舉ヲシテ果シテ成功セシメント欲  
セハ尤ノ要件ヲ以テ專安トナスソハ他ナシ乃チ切ニ  
其舉ヲ熟望スル人民中ニ公德アルヲ諸般ノ經驗ニ依

テ世ニ明示セラレタル簡單ノ法ヲ撰ムヘキノ智識ヲ  
我治者ノ腦髓ニ存スルヲ被治者モ治者モ病魔ヲ治シ  
去ルハ只外科術ヲ施シ截断法ヲ行フニアル而已ナル  
カ故ニ暫時其艱難辛苦ヲ忍ブ是レナリ以上ハ最大  
ノ要務ナリトス

第十六編畢

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100

新  
省



